

會事業講座と雖も、なるべく人間としての全體的見地を基準として、あらゆるものを綜合する主義をとるべきである。如何に努むるも大學に於ける綜合には限度があり、第一、それには併存關係の附着するを免れざるべく、第二、それは知的な科學的な綜合以上に出づることはできず、人間的立場より體験的な綜合をなす見込みのないものである。社會事業の綜合は單に知的綜合たるを意味せず、行動の加はるものであり、知識と技術との結合する實際的なものである。かくの如き體験的全一的綜合は分科的で偏知的である大學教育の如何ともなす能はざる場所であるから、人間的見地による社會事業教育は大學以外、特別なる機關を要することとなる。こゝは特殊社會事業學校特設の意義がある。

大學に於ける社會事業教育は分科的で理論的であり、社會事業知識を完全に習得するところである。かくの如き機關はこれを大學以外に求むることはできぬ。英國では大學で社會事業を教へて居るが、それにも拘はらず、大學教授からも社會事業家からも大學教育に反對するものがある。社會事業家は大學といふが如き偏知的なところで社會事業を傳授することは能きぬと言ふし、大學教授には學科間で偏見があり、新學科に對し不親切な例によつて例の如き態度がある。獨逸あたりには社會學を嚴密な科學でないとし、大學で教へることは能きぬとする偏見があるが、かくの如き偏見は現今社會事業に對して各國共通である。學問の外、無形な學科に對しても間は嚴存するわけで、なか／＼新參な學科が易々大學に於ける學科間を浸すことはできぬ。こゝに例の如く社會事業

は未だ科學でないとか、科學的體系を具備しないとかがといふ非難が現はれる。素より、學科が大學へ入り込むには科學たならなければならぬが、又それが社會より最高なる知識を求めらるゝ必要上大學に於て未だ科學ならぬものをも教授することにいたるも亦止むをえない。醫學でも工學でも大學へ導入せられし當時には科學といふ程度のもではなかつたが、社會が高等な醫師や技術者を要求する必要上、大學でそれ等の學科を教へたものである。現に社會事業に従事するもの我國に約十萬人を算し、歐米を通じて夥しき數に上り、社會技師の需要勃然として起り、技術員の養成急を加ふるに拘はらず、大學に於て技術員を造り出さぬとは一見矛盾と考へらるゝであらう。醫師や工業技師は造るが、社會技師にかぎり造らぬといふ道理はない。社會事業は未だ科學でないから、大學に於て社會事業の教育はしないといふかも知れぬが、それは社會の需要を無視するものである。素より、大學に於ても社會の要求を冷然看過することはできぬ。こゝに、實際の見地からも社會事業は大學へ導入せられる理由がある。大學では理論的な學科は教へるが、一切實際的な技術には關係がないとは言はれない。醫學生は大學に於て臨床的實驗を積むし、工學生はそれ相當の實驗をするし、化學生は化學室で實驗をなす等、大學でも實際的な技術に熟習するを期して居るものはいくらもある。然るに、獨り社會事業に對してのみ、實際的であるから大學で教ふるに足りないといふのは偏見に外ならない。併し、大學に於ける社會事業教育は分科的で知的である性質上、餘儀なく非實際的ともなつて、社會事業の要求するが如き應用的で實用的で、實際に即し熟練を期す

ることはできぬであらう。こゝに於て、何づれにしても、特殊社會事業學校特設の要があるであらう。

二 大學に於ける社會事業教育の現勢

英國では社會事業は國民に認められ大學に導入せられて居る。英國では教育、衛生、工業、犯罪學など人間の活動に關する學科の教授は大學の義務であるとせられ、社會科學はすべて大學の容認をえ Department of Social Study に加へられて居る。社會事業はその普遍的な社會的勢力の故に法律にも神學にも工學にも都市經營にも影響をもつと解せられ、又それ等の學科の保護をも受くる地位にある。英國では社會とその進歩とに對する關心が國民間に旺盛で、直接政策に當り國民を指導するものは勿論、一般實際家に於ても社會上の知識を所せねばならぬとし、社會哲學は英國人には重要な役割を與へられて居る。これに對し、大學のみ高き社會的知識と素養とを與へうるものとせられ、英國では社會事業は大學に導入せられて嚴たる地歩を占めてゐる。英國の大學は社會の福祉とその進歩とに關し、社會事業研究の義務を感じ、大學に於て社會事業の講義を開始したのである。英國の大學は社會事業に對し學科間をあくまで固執せず、學科間の固執よりも社會の福祉とその進歩とを圖ることが重大であるとする國民性をそのまゝ反映した。社會活動に於ては諸々の分派や主義があつて公平を期することができないが、大學に於ける社會事業教授は大學が公平な中立な立場にある故を以て、それを單に學問

として冷靜に研究することができるとなし英國人は大學を以て偏頗となるべき傾きのある社會事業教育機關として適當なりと考へて居る。大學といふ如き多種多様の知識を授け、諸々の利害や關心や目的に接觸することができ、無数の文献に眼を曝らして廣汎なる世界を大觀することが能きる仕組みに於て、最も公平妥當なる態度の生ずべきは自明である。社會事業家は雑多な知識を必要となし、一より他に任意に簡單に推移しなければならぬが、大學では綜合制をとりうるから、その事可能なるは自明である。一より他に移つて學習をなす仕組みにあつてはその繼續を期すること容易でないが、大學は永續的機關であるから、その學習を中絶せしむるやうなことはない。その上、英國では大學の社會的義務が關係者側の意識に上り、大學は畢竟社會を本位すべき一機關だと認められ、社會に影響を與へ、その福祉を來すやうなことであれば、何でも大學は極力これに當らなければならぬと考へて居る。こゝに英國の大學に逸早く社會事業が導入せられ、講座が開始せられし理由がある。これに關しマカダム女史は Philanthropy has unfolded into Social Politics. The right understanding of social politics is the basis of all national and international progress, and it is to farther such understanding that university schools of social study are seeking to-day. と言つて居る。

米國では多くの大學が社會事業講座を特設して居る。社會事業の大學への導入はアグロサクソン系統の國に於て完全に遂行された。米國の社會事業教育は四の範類に分れる。すなはち、(一) 大學に結合せざる獨立社會事

業學校、(二) 大學に結合し、それによつて行はれるもの、(三) 學内に特定の教育機關を設けるが、その教職は該分科に席を置きながら、集り來つては教授するもの、(四) 定つた教職を置かず一分科又はその他より助勢する非組織的なる教育機關の四類である。米國の社會事業教育は學校より發源せず、社會事業團體の企圖せしものであつた。社會事業團體はその従業員養成の必要から社會事業教育を開始した。社會事業團體によつて始められた學校は二の特徴をもつ。第一、社會事業團體と學校との間に連絡があり密接な關係があるから、現業界の要求に應じその方法に適合することができる。米國の社會事業運営の方法は卅五年間に一變したが、斯る方法に適合するには大學の如き窮屈な形式をもつものでは可能でない。その上、社會事業學校と社會事業團體との關係は親密であるから兩者の關係は極めて圓滿であつた。第二、それによつて社會事業團體關係の學校によつて讀書熱が高まり、研究心も燃えたから知識を普及傳播するに都合がよかつた。なほ、學校と社會事業團體との間に關係があつたから、通常、大學で社會事業を専攻しても必ずしも、社會事業に従事すると限らず他の職業にをもむく風潮を遮斷することができた。そこで、學校を出た若き社會事業家はたいてい現業に従業する有様であつた。但しかくの如き簡易な方法を以てする社會事業教育は不完全なるを免れなかつた。大學の分科に社會事業講座を設けずして、社會事業を實際的なものと見、恰も看護婦が病院で養成される如く、社會事業團體と連絡をとり、社會事業教育を行はんとするは何づれにして極めて不完全たらざるをえない。病院に於ける看護婦養成の方法によつ

ては練習生は深き學習をなす心的態度なく、生理解剖を篤と研究せずして單に教科書を読むといふ類であり、醫師の不用意な講義をしだらなく聴く類で、一段に皮相淺薄たらざるをえない。米國に於て、社會事業團體と結合する社會事業教育は概ねこの類で皮相淺薄であつた。そこでは教師も實際家を以てこれにあて、實際家指導の下に經驗を積ませる仕組みであつた。この方法にあつては皮相淺薄なる代りに、實際に即して教授することができ、且つ、現業に絶えず接觸する指導者によつて興味を與へられ、實際に通ずることができる。但し、かくの如き非組織な教授によつて組織的な知識を得ることのできないのは自明である。それに教授の順序も方法も支離滅裂であり、重複ともなり、矛盾ともなり、到底これによつて終始一貫の教育を施すにたえない。ただ、かくの如き氣樂な融通の利く教育方法と雖も何等かその特長をもち、それによつて初期の社會事業教育者の大學教育排斥の根據となつた。ある論者は云ふ We are aiming to develop a new profession. The persons to develop it are breaking new ground in methods and in the whole science and technique of the subject. We ought to entirely free from rigid traditions; we ought also to be free in our own professional point of view as to social problems. We are not want to have our methods determined by academic methods suitable for other subjects but not necessarily for this…… We can be held responsible for our own work; we are not willing to surrender this

responsibility to another profession. かういふ流儀で大學に於ける社會事業教育を否認して居るが、社會事業も亦その他の學科の如く大學に於て組織的に教授するを避けることはできず、急に戰時中、米國でも大學へ社會事業が導入せられ、一齊に三十二の大學が社會事業教育を行ふにいたつた。社會事業も科學的なものとして取扱はなければならぬが、それには、學的知識を管掌する大學に依らなければならぬ。なほ孤立して社會事業を研究する方法は學問研究が綜合的な限りその目的を達しえず、よつて他の學問と交渉し關係しながら研究する方法の發達となり、大學に於ける綜合的研究方法が社會事業にも導入される機運となる。但し、大學に於ける社會事業教育は現業界の氣分、實勢、現實、理想を直射せず反映せざるものであり、現業界はあくまで全一的人間的で體驗に終始するであらうし、大學教育を物足りなく思ふであらう。よつて、米國の社會事業界で分科的斷片的に墮する大學教育を否認し、自家の手により社會事業教育を行はんとするは當然であり、一笑に付することはできぬ。また、かくの如き人間の見地はどこまでも保存しなければならぬから、特殊社會事業學校制ともなつて現はれるのである。併し、それかと言つて分科的な科學的方法に依頼することも避けることはできないから、米國に於ても竟に大がかりに社會事業が戰時中大學に導入せられたのである。米國に於ては社會事業が大學へ導入せらるべしとする輿論は既に成熟に達して居る。但し、社會事業に對する偏見は地方に異つてその程度を異にして居る。米國の中部、極西部、ある程度に於て南部の大學は常に一般民衆に接觸して來たから貴族的獨善的なら

ず、何でも民衆の關心や要求を反映する趣きがある。然るに古き傳統をもつ東部の大學は貴族的獨善的で、一定の型を維持して譲らず、各範圍の指導者を造り出すのみで、民衆の要求を顧みず、科學的な農業や女子大學へ家政をいれるといふやうな案にはいつでも反對する。中部、西部、南部では、一般に民衆の意を迎へる傾向があり、技術的農夫がいると言へばそれを養成もするし、辯護士がいると言へばそれを供給もする。それは醫學校も經營すれば、教育、藥劑、家政など何一として大學へ入れてならないものはないとする。それによつて大學の價値と品位とを下すと考へるような頑固偏狭な趣は少しもない。それ故、ここでは社會事業に對しても一部の教授間には偏見がありとしても、大學ではそんなことに頓着なく同情の態度を示して居る。インディアナ、オハイオ、アイオワ、ミネソダ、ミズリイ、北カロライナ、オレゴン、カルフォルニア、ミシガン、ネブラスカ、ウイシコシヨンの諸大學には既に社會事業が導入せられ、組織的に社會事業教育が行はれて居る。それ等の地方に於けるその他の大學もこれに倣ふ傾向があり、中部、西部、南部の大學は多く社會事業教育に關し同情の態度をもつて居る。概して大都市に於ては社會事業も盛でありその要求もあるが、小都市に於ては然らず。それが爲め小都市所在の大學は社會事業講座を特設することに遅れを取つて居る。但し農村に於ても問題の生起を避けることはできず、そこでも社會事業があることが一般に分りつゝあるから僻地の大學も亦漸次社會事業に注意を拂ふ趨勢である。

英國に於て社會事業教育を施行するものはバーミンガム大學、ブリストル大學、エティンバグ大學、グラスゴウ大學、リーズ大學、リバプール大學、ロンドン大學、オックスフォード大學、セント・アンドリュース大學である。米國ではミシガン大學、ジョンボプキンス大學、インディアナ大學、シモンズ・カレッヂ社會事業部、ブリアン・マール・カレッヂ、北カロライナ大學、シカゴ大學、ロヨラ大學、シンシナチイ大學、ウエスタア・レザープ大學、ミヅリイ大學、オハイオ大學、北カリフォルニア大學、ウイスコンシオン大學、ミネソタ大學、紐育社會事業學校、紐育猶太人社會事業學校、スミス社會事業學校、ペンシルヴェニア社會及保健學校、カルネギー工藝學校、オレゴン大學、バアジニア社會事業公衛生學校、ウアシントン國家舊教婦人社會事業學校である。

大學には古き傳統があり、それがため固陋にもなり偏見にも陥るから、兎角、社會事業とふいが如き新參然かも技術的學科は輕視される傾きがある。社會事業は海野の學論に従へば綜合的體験的で、その學的價值から言つても他の分析的分斷的な科學に優れるが、かくの如き學論は未だ一般化するに至らない。そこで、兎角、精神的な知的な學科殊に古き傳統をもつ學科を貴しとなし、技術的な學科を輕視する傾きがある。社會事業は知識であると共に行動であり、一層完全に實在を反映するけれども、それが行動であり技術であるといふところに在來の頑固な傳統が介在跋扈してその優越性を見免す。獨逸の大學でもかくの如き傾向があると見へ、ザロモン女博

士は *Das würde nur dann zutreffen, wenn geistige intellektuelle Arbeit grundsätzlich gegenüber praktischer Arbeit höher zu werden sei, während es sich dabei um unvergleichbare Dinge handelt, die beide auf verschiedenen Höhenlagen möglich sind* と言つて居る。兎角、抽象的な知的な科學が尊敬され、それがため學者とか科學者とかいふこの國でも一段に技術にまつわる畫家、彫刻家、工藝家、音樂者よりも尊敬され重き位置を與へられて居る。社會事業が一般低く見られるのもそれが技術に關し行動に關するからである。社會事業の技術的方面を擔當するものはその科學的方面を分擔する學者よりも低いと見られて居るが、この場合、社會事業學者に對する比較的高き評價はその抽象的知的取扱に關するからである。科學者に對する藝術家の評価はその文化的價值の上に於てなされなければならぬが、かくの如き比較をなす客觀的標準なるものは存しない。

獨逸では社會事業は英國や米國の如く大學によつて注意せられず、新參扱ひにされ輕視されてゐる。獨逸には一九二七年に三十三の特殊社會事業學校が開設されてゐるが、例外として社會事業が、フランクフルト大學にクルンケル教授の熱心なる主張と支持の下に導入せられただけで、社會事業は一般に大學に導入せられないばかりでなく、寧ろ排斥されて居る傾きがある。獨逸では工藝技術に關してはこれまで在來の非組織的な不完全な徒弟制度で教育されて居り、やうやく近年専門學校程度の教育機關をつくつたが、大學へこれ等の學科が導入される

には獨逸の大學は餘りに硬化して居る。素より、傳統に捉はれ勝ちの古き大學は新學科を入れるに澁り勝ちであり、殊に工藝技術を蔑視して近づけない傾きがある。英國ではオックスフォード大學やケムブリッジ大學の如き古き傳統をもつ一流大學は新學科に不親切であるが、ロンドン、リバプール、バアミンガム、リイズ、ブリストル諸大學には農業經濟、獸醫、工藝技術が取り入れられ、かつ、それ等諸大學は悉く社會事業講座を特設して居る。新學科が大學へ入り込むのは漸進的でなか／＼頑固な傾向と戦つてからでなければならぬ。古い一流の大學は學科に於てさへその專賣的價値を付し、容易に新學科にその門戸を窺はしめない。人間のやることは、如何なる所、如何なる種類、如何なる範圍と雖も異なるにあらす到るところ偏見と利己と獨占とに充ちて居る。凡ゆる榮譽は例外なく一部のものに獨占され、偏見と利己とが到るところに蔓つてゐる。人間には生きる組織も大切だが、如何に巧みな良い組織ができて、人間の心理が變へられ、その利己心にゆるぎを來さなければ、改良されたる組織は再び利己の犠牲となり、一部の特權者が占據してその利益に腐心する道具に早變りをする。大學に於ても、この一般的な人間の心理的傾向としての利己と偏見と獨占とに異りはない。そこで大學に於ても人間に對しては勿論、學科に對してさへ利己と偏見と獨占とは遠慮會釋なく暴威を揮ふ。古き一流の大學になる程この傾向は勿論甚だしい。そこには、一層利己と偏見と獨占とを維持しなければならぬ理由があり、その必要もある。たとへば、アメリカ東部の大學へは夙に導入せられし精神科學と自然科學との外にはなか／＼他の學科が入り込

むこと容易ならず、徐々として法學、醫學、神學などが浸入した。古き傳統を有つ學科に對しては時を移さず門戸を開くが、器械學の如き新參ものに對しては米國東部の大學は澁々に徐々その門戸を開きしのみ。我國の大學に於ても官學や一流の私學は未だ社會事業に何の注意を拂ふにいたらず、わづかに他の私學が社會事業教育を導き入せしのみ。東洋大學、宗教大學、日本大學、明治學院、關東學院などが初期の形態をとるに過ぎざる社會事業教育機關として成立して居る。女子大學に對しては、既に一般民衆の要望あるに拘はらず、日本女子大學は大學令による女子大學として公認さるゝにいたらない。女子であるからといふ單なる理由でただ一個の女子大學さへも公認さるゝ機運に達しない。女子帝國大學の出現を見るはいつの日なるか知るべからず。我國では極端に女子の大學教育を侮辱し差別して居る。その結果、我國に於ては不當に女子の指導者に乏しい。文科法科經濟科に學習をなし、自己の權利を主張しうる能力を獲得せしもの極めて寥々たる慘狀にあり、かくて女子教育を喋々する資格は我國民にはない筈である。これ單に男子の女子に對する利己と偏見と獨占とが大學の姿で現はれし一例たるのみ。偏見獨占利己は如何なる範圍如何なる方面にもその暴威を逞ふする。米國東部の女子大學でも久しく出身者の職業上の地位を認めなかつたが、これは男子の獨占的な特權を凌ぐと考へたからである。米國中部、極西部南部の大學では總ての職業に一視同仁であり、いづれの職業に對しても學科に門戸を開放する方針であり、従つて社會事業に對しても同情がある。ザロモン女博士は米國大學の實際的なこと、獨逸大學の理論的なこと、の理由と

して、米國大學は歐洲の殖民地として學科に於てもその傳統を歐洲に酌んだが、殖民地に於てその學科を實際に應用しなければならぬ必要上實際重視の傾向を生じたと言ふて居る。その上、米國人は宗教的政治的經濟的の壓制を免れんがため殖民したのだから、人間の價值とその福祉とその健康とを重視する傾きを生じ、従つて人間の福祉を圖る學科の繁昌となつて現はれた。米國の如き人口の稀薄なところでは自づから人間の價值が高からざるをえぬから、こゝからも人間の福祉に關す學科の重視となつた。かくて、人間の生活とその幸福とを企圖する實際的な學科が米國の大學へ導入せられた。これに對し、獨逸では學問は貴族的なものとして寺院に閉ぢ込められてゐたが、文藝復興の影響により學者養成學問と庶民開發の教育とが分れた關係上、學科に於ても大學は貴族的なものとなつた。その上哲學に占斷せられて居る獨逸大學は新學科を入れることができない。そこで、高等工藝學校、高等技術學校、高等農業學校、高等商業學校、建築學校といふやうな技術教育機關が大學より分立して特設することゝなつた。更らに歐洲では人口が稠密であるから人間の價值低く、戰爭攻伐を事として人間を土芥視する氣風があり、それがため國家とその存立その權力は無上絶對なものとなつて、抽象的な國家は具象的な社會よりも重視せらるゝにいたつた。かくの如き獨逸に於て人間とその價值並にその福祉を對象とする科學の繁昌せざるは自然の勢ひである。我國にもある意味に於てこれによく似て居る。我國では狭少なる國土に大人口が密集し、ただ戰爭を通じてその人口を放出する運命にあり、抽象的な國家とその價值及權力は無上絶對となり、政治

家は非常に尊敬せられ軍人も亦さうである。軍人に對しては漸く輕視の傾きを生じたに過ぎぬ。我國では具象的な社會は極度に輕視せられて居る。かゝる國狀に於て國民が一般に抽象的な諸種の偶像を重視し尊敬し、これに對し人間とその價值とを極度に輕視し、人民の幸福を度外するは自然の勢ひである。我國に於ては集團、法人、國家といふやうな抽象物が無上の價值を有し、個人、人間その價值、その幸福に一文の値打のあるのではない。かゝる國土に人間價值とその要求とその権利とその自由とが蹂躪されて泥土に委せらるゝに何の不思議はない。我國には個人、人間、國民といふやうな具體的なものは一文の價值がなく又それを要求する念慮も國民の間に發達して居ないのであるから、人間とか人間的價值などと言ひ合ふことは我國人には潜越でもあり、又猿に袴の類でもある。かゝる境遇にある日本の大學に人間とその福祉とをめぐつて研究が渦をまき、それに對し科學的貢獻をなし、以て人間の福祉を高めんとする理想のかゝけ出さるゝことについては何人も期待しないであらう。これによつて、我國の大學が社會事業に對して親切なりうると考へらるゝ何の根據もないやうに思はれる。我國では、社會事業の如き人間の福祉に終始する知識と行動と、實際と理論との融合する科學は輕視され、人間の解放とその向上とを目標とする人間的科學は過分な冷遇を受くる運命にある。殊に女子社會事業家の養成については困難が加重するであらう。社會事業は素より女子に適當な職業であり、女社會事業家の養成は特に必要なるを感ずる。然るに、女子大學を容認せざる我國民が女社會事業及女吏員をどの程度に採用するにいたるであらう

か、歐米に於ては社會事業家と言へば女社會事業家を意味し、社會事業は女子の王者的領野として取扱はれて居るが、今のところ、我國に於ける女社會事業家及女吏員は不當に少い。かゝる現状であるから、今後、社會事業界に於ける男子の利己と獨占とを破るは女子の聖戦と見做さるゝであらう。

三 大學教育の範圍と界限

これまで、論究せしところによつて、大學に於ける社會事業教育の界限は一見明瞭である。全一的な人間的な社會事業教育を大學によつて行ふことはできぬ。それは餘りに偏知的で分斷的である。大學に於ては體驗的洞察や直觀や人間の見地は全く望みなきことである。大學の研究は綜合的でありうるけれども、その綜合たるや併存的のものであり器械的のものである。その上、大學に於て綜合の原則を徹底せしむるは諸々の障害がある。これに對し、特殊社會事業學校に於ける綜合は體驗によつての綜合である。そこでは、綜合といふよりも融合と言つた方が適切である。特殊社會事業學校に於ける綜合は哲學的全一による綜合であるが、大學に於ける綜合は科學的全一による綜合である。哲學的全一は體驗の姿であつて、主觀も客觀も分裂せざる本原體に於けるものである。これに對し、科學的全一は一度び主客兩觀が分裂し、各種の分裂と分斷とを経た上でもう一度纏められ本原體に歸り行く上に於て生ずる分析的綜合である。この分析的綜合は本原體そのものである。哲學的全一とは區別

しなければならぬ。よつて、海野はそれを科學的全一として彼と此とを區別表示して居る。

大學に於ける教育は分析的であり、分斷の上に成立するものである。それは感情や意志を加ふることのできぬもので、偏知的なものである。體驗といふが如き知情意の融合するが如きものは研究の對象たることはできず、従つて、大學に於てそれを教授することはできない。社會事業對象は綜合的であり、體驗的であるから、單に分斷的な知的側面のみを遊離するも何の得るところはない。よつて、かくの如き特殊の對象をもつ社會事業の研究は大學に於て遂行することはできない。これが大學に於て體驗的な社會事業研究と教授との不可能なる所以である。こゝにも大學に於ける社會事業教育の界限がある。

併し、大學に於ける各種の研究と教育とは最高のもつと考へられて居る。この事は英國に於ても、米國に於ても、獨逸に於ても、我國に於ても同一である。我國では何でも大學で學習されたものは最高の價值があるやうに考へられて居る。一般民衆に於ても大學關係者に於てもさう思つて居る。然らば、我國に於ては、この一般的思潮に應じ、大學で最高と思はるゝ社會事業教育を行ふことは避けがたい。他の所で社會事業教育を行つても、その聲價の上では大學に於けるものと比較にならぬであらうから、それだけ損害とならう。こゝに我國に於ても社會事業教育が必ず大學に導入されなければならぬ一理由がある。

大學に於ける社會事業教育は體驗的全一的たることはできないが、分析的であり、知的であり、科學的たるこ

とをうる。かくの如き學習を目的として大學に於ける社會事業教育は遂行されなければならぬ。それ故、大學に於ける社會事業講座は指導者や理論家や學者を造り出すことを目標とすべきで、實際家や現業家の造成は特殊社會事業學校の分擔とする。社會事業吏員は大學と特殊社會事業學校とによつてなされる。大學出身の吏員は社會技師といふやうな偏知的な技術員や、また、監督吏員、指導委員、調査委員の類であり、特殊社會事業學校出身者は救護的 *pflegerische* で、第一線に出動して現業を行ふものとして採用すべきである。大學出身者は抽象的方面を分擔し、特殊社會事業學校出身者は具體的方面を分擔する。抽象と具象、概括と事實との巧妙なる組合せをつくることにより社會事業は始めて完成なる業績を擧ぐるであらう。

参 考 文 籍

1. Tufts, Education and Training in Social Work, Chapt. VI.
2. Steiner, Education for Social Work.
3. Macadam, Equipment of the Social Worker, Chapt V.
4. Salomon, Die Ausbildung zum sozialen Beruf. S. 172—192.
5. Salomon, Die deutsche Akademie für soziale und pädagogische Frauensarbeit in

Gesamtaufbau des deutschen Bildungswesens, Deutsche Zeitschrift für Wohltätigkeitspflege, 5 / 3.

6. H. Weber, Akademiker und Wohlfahrtspflege im Volksstaat.

第十五章 特殊社會事業教育

社會事業家とは何であるかに就ては別のところで分析闡明するが、社會事業家は分析的なものでなく、総合的全體に關するものであり、知識と行動と實際と理想とが融合して特定の人生觀に達せしものである。よつて社會事業家は到底大學といふが如き分科的なところで養成することはできぬ。然らば、社會事業家や社會事業吏員の養成は人間的な養成機關たる特殊社會事業學校によつて達成する外はなからう。

大學では純粹な科學として社會事業を教へなければならぬし、知的内容とその方法とは純科學的に進まなければならぬ。然るに、社會事業家の養成は純科學的に進むことはできず、それは實際と行動とに關するものである。社會事業知識は行動に變化さるべき性質のものであるが、かくの如き行動化さるゝ知識は大學で取扱ふに適當でない。大學では實際と行動とに習熟する機會がなく、又それは不可能でもあらう。それに社會事業には理想を要し、人生觀をもたなければならず、社會事業家にあつてはこれが寧ろ分科的な知識よりも肝要なるに於て、純粹科學的たる外余念のない大學で社會事業知識を傳授することは聊か困難であらう。

科學は知識のための知識を目標とし、その固有な本質をこれに求むるから、認識は實際的な活動に及ぶことは

できない。社會事業ば認識に關するのみならず、行動に向けられ、知識を行動に變化して個人、全集團及人間の困窮を軽減除去し、その福祉を増進しなければならぬ。社會事業は人間の住む環境を變化改造して、その外形を整へ、その内的進化を規正して人間性の完成を企圖しなければならぬ。それは分科的な知識を用ゐるけれども、それを技術(art)に變化する用意がある。概念として把握するだけでは十分でなく、人生の上に影響を及ぼし、その充實發展を齎らさなければならぬ。だから、社會事業知識は auf das praktische Handeln bezügliche

Theorie で大學に於ける純粹科學的なものと異ふ。分科的な科學としての社會事業は大學で教へることができ、學としての社會事業は大學でのみ學習されなければならぬが、行動にまつはるは知識は特殊社會事業學校で教ふる一途あるのみ。分科的な學者としての社會事業研究は大學で分擔するが、實際的な社會事業家の養成は特殊社會事業學校の任務である。

次に、大學は特殊化に向ひ、分科的で、Totalität Lebens に向ふことはできぬ。大學で生産さるゝものは、特殊的な學者や限定せられたる専門家であつて、全體的な総合的な何ものをもこれから産出することができぬ。ハイリッピヒ、ウエーバー博士は Die Unterrichtsmethode ist meist nicht die akademische, da es nicht nur auf Wissen ankommt, sondern auf Erziehung und Entwicklung der vorausgesetzten Eignung. Selbstänlich wird die Praxis mit die Theorie verbunden (教授方法は多く學校的でなく、それに先行す

る個性にも關係する。自明的に實際は論理に結びつく」と言つて居るが、是又、社會事業の全體的なもので、知識に偏するものでなく、更らにその非分科的たるを表明するものである。

大學に於ては各種の知識を學びうるが、社會事業知識は人間の見地によるもの、人間の生存に關係するものばかりで身體的な精神的な經濟社會的な精神文化的な *Lebensgemeinschaft* に住む人間に關するものばかりである。大學の研究は分科的であるが、社會事業の研究はその對象性の綜合的なる故に一が多に關係する見地によつて研究されねばならぬ。これ分科的な大學の外、社會事業研究が一が他に關係する見地による特殊社會事業學校を必要とする所以である。社會事業は五分枝に分れるが、特殊社會事業學校ではこれを互に關係せしめて研究する主義をとる。一の分枝はその他の分枝に同時に関わり合ひ、全體として存する外ないものであるが、分科的見地に於ては、如何にしてもこれを完全に取扱ひ、その研究を完了する見込がない。社會事業家たるには分科的見地によつて社會事業知識を取扱ふべきでなく、それは一層廣汎なる見地により社會的結合體を内と外より考案しなくてはならぬ。それ故、一分枝に關する知識の習得は全體的知識を一層明かにする見地によるもので、分枝の故に分枝を研究する主義によるものではない。こゝに社會事業の學習が分科的ならずして綜合的ならざるべからざる理由があり、大學の社會事業講座の外に特殊社會事業學校制をも維持確保する理由がある。

社會事業の分科的知識は併存關係 (*nebeneinander*) によつて研究されるであらう。各分枝は孤立することな

く併存關係をとり、更らに、これは *Totalität des Menschen* の人間の見地により取扱はなければならぬ。それは單に知識によるにあらず、實際とも關はり合ひながら進んで行く。社會事業研究は人間を了解することを目的とし單に知識を獲得するよりも廣汎で深奥である。社會事業對象は歴史的なものであるから、「社會事業學原理」第一篇第九章「社會事業の研究の方法」を通讀されたし）變化と偶然と創造と個性につき體驗としての本體に極る。體驗は主客觀分裂以前のものであり、かたゞ、定型によつて把握せられるのみである（定型社會事業については「原理」第五篇を見られたし）それ故、社會事業對象は一度かぎりのもの不可分なるもの全體的なもので歴史的な人間に關するものである。この歴史的な不可分の人間とその現象を分斷して研究するが分科的見地であり、それが大學の研究方法である。人間的な全的見地に於ては知識も技術（若しくは實際）も融合し彼と此とを區別することができないが、かくの如き知識と實際との結合する實在より知識のみを遊離して、その姿を明にせんとするものが純粹科學の立場である。純粹科學は全實在の一部分、即ちその中より知的部分のみを切り離しそれを研究の對象とする。大學に於ける社會事業講座は實在を分離して知識のみを残し（こゝでは實在とは知識と實際と行動と理想と人生觀との不可分に融合されるもの）それを研究の對象とする。これに對して實在そのものを蕪直に研究の對象とするものがなければならぬ。かくの如き全實在（こゝでは社會事業に於ける全實在）を研科の目標とするもの即ち特殊社會事業學校である。

特殊社會事業學校では理論に實際を接合し、知識を實際に變化して、*eine wissenschaftliche Gesinnung, eine geistige Beweglichkeit, die Fähigkeit zu selbständigem Urteilen im Hinblick auf weitreichende praktischen Aufgaben* に極るものとする。こゝに知識は單なる知識に終らずして行動に轉化し、人生を深め、人間の生活を保持し、かつ、完成するものとなる。知識の故に知識を求むのが大學であり、それを行動に轉化し、人生と生活との保持及完成とに向ふものが特殊社會事業學校である。特殊社會事業學校では人間の身體的精神的構造を取扱ひ、その社會的運命に關心し、個人と國民全體の疾病と健康とに關り合ひ、社會生活の部分のみならず、寧ろその全觀をつくさんとする態度をとる。

大學の環境は科學研究には適當であるが、全的人生の研究及その促進には不適當である。大學の環境は科學の故の科學であり、純研究の立場をとりうるが、人生はこの外、道德的の熱情や宗教的な情操をもたなければならぬ。大學ではかくの如き立場と態度とは害あつても益はない。客觀的な純粹な論理的科學的な立場は大學のものであるが、人生は實在の全景によるもので、科學の如くその中より知的な一側面をすぐり出すが如きものでない。

かく如き歴史的な學論は著者の終始一貫學として社會事業を構成し「社會事業原理」の探りし主義である。一度かぎり、繰り返へざる歴史的な存在物としての人間の困窮と福祉とは個別的に研究され、それが概念化する

としても、たかゞそれは定型によつて究明さるゝに過ぎない。

獨逸では社會事業教育は特殊社會事業學校として行はれて居る。大學にも一ヶ所の社會事業講座が設けられた筈であるが、獨逸では社會事業教育は主として特殊社會事業學校で行ふ方針をとつてゐる。獨逸では論理的科學的な大學教育は知識と行動と實際と技術との結合する社會事業には不適當だと考へられて居る。この事は大體音樂學校や工藝學校でも同一である。社會事業學校が學者を養成するを目的とせず實際家を造り出すことを目標とするように、音樂學校は音樂學者をつくるよりも秀拔なる音樂家をつくり、工藝學校は工藝學者や工藝史家をつくるよりも優秀なる畫家や彫刻家をつくることを目的とする。そこで、大學では音樂學者や工藝學者をつくることを目標とする外はないから、音樂や工藝を大學で教へることはできず、特殊な獨立な音樂學校と工藝學校とを創設する必要がある。音樂や工藝は非合理的なものであるから、これを理論的な大學で教へることはできない。大學の態度と傳統とは音樂者をつくり工藝家をつくるには不適當である。何んでも高等な學藝は大學で取扱ひ且教授しうるよう考へるのは大學萬能病である。大學で教授するものは分科的な論理的なものに限られて居る。音樂や工藝の如き非合理的な實際的なものは大學で教授することはできぬ。實際的な教科は凡て大學で取扱ふことはできぬ。大學は科學的理論的教科に適するばかりで、實際的なものは別の機關に依らなければならぬ。たとへば、農業經濟、商業及鑛山に關する教育は實際的ならなければならぬから、それ等の教育に對しては特殊學校制

を採らなければならぬ。然るに、これを無闇に大學制となし商科大學、農科大學、工科大學として教授する如きは大學の理論的分科的で實際的でないことを見免すものであり、若くは大學萬能、大學迷信論である。分科としての商科大學、農科大學、工科大學は夫々學者をつくり出す機關で、實際家は夫々特殊な養成機關に依らなければならぬ。

社會事業機關も亦大學より分化しなければならぬ。それは、人間的な(全體的な)探求であり、教育を生命化しなければならぬ。それは分科的に把握理解するばかりでなく、人間の眞實在より實際的な理想をつくり出しそれを統一して全體的な人格にまとめなければならぬ。かくの如き全體的見地は分科學な大學の教育で實現すべからざるは明かである。

社會事業教育は男に對しても女に對しても社會事業家及吏員に向けられる限り特殊社會事業學校制を探るべきであるが、女に對しては男と共學すべきか否かの問題が起らう。著者は「社會事業學原理」のうちで、社會事業に於ける女子の特質を論じ、その分業を確定したから、社會事業教育についても分業に従つて男女は各別に教育しなければならぬことを主張する。

現時の社會事業は多く官公によつて運営せられるものなるが故に行政的で男子に適するが、救護的(Hege-
rische, fürsorgende)なる往時の慈善事業は女子に適當である。我國現時の趨勢は、主として男子を雇用する

が、これ主として我國の社會事業が官公のものとして進行しつゝあるからである。但し、その中に救護的ものは行政的なものゝ外に分立し、それが益々分化するであらうから、女子社會事業及吏員の需要は漸次痛切なるものになるであらう。獨逸では十九世の終りに社會事業教育が導入せられたが、當時、社會事業は職業としては女子に占斷せられ、救護は女子に固有の領野と見做され、絶えて男子はこの分野へ浸入しなかつた。然るにその後、官公社會事業の盛となるにいたり、救護的なると共に行政的技術的なるものが生じ、それが從來の統傳上男子にふさはしきものと解せられ、社會事業にも男子が浸入するにいたつた。そこで男子が共同のものとして社會事業を見るにいたり、男女が共同に働いて居るが、大體、社會事業が兩者に同様なことを要求するとしても、男女の間に分業のあることもやうやく確立の機運に向ひつゝある。男子は大體行政的技術的であり、女子は大體慈善的救護的である。勿論、男子は救護的分業にも出入し、女子は行政的技術的範圍にも入り込むが、男女の間に分業をたてることはどこまでも正しい。女子中に男性に接近するものがあり、客觀的で物的で理性的あるようなものであるが、これは無論男子の分野たる行政的技術的範圍にも適するであらう。但し、大體、女は女らしいといふ原則に外づればしないから、社會事業に於ても男女の間に分業を設定するに何の差闕へあらうとも思はれぬ。女子は特に社會事業に參與する天分を有し社會事業は特有の領野であると言へる。愛と人道とに基く社會活動に於て女子が男子よりも大なる要求をなす資格あるは言をまたぬ。人間の身體的精神的困窮と經濟的社會的運命

と精神的文化的落伍に關し愛の持主たる女子が獨特なる活動をなしうるは明かである。女子は全人的であり、全體的見地をもちうるから Totalität des Lebens に關する問題は男子よりも一切適切に取扱ふことができる。社會事業教育は凡て全體的見地によつて行はなければならぬ。人間の困窮や福祉は分斷的見地によつて接近しえざる限り、これを體験的全一によつて取扱ふべきは自明である。社會事業教育は特殊社會事業學校制に依らなければならぬが、全人的體験的なる女子社會事業學校では社會事業教育と言はるべき最も純眞な代表的な教育を行ふことができる。社會事業は全人的であり特殊社會事業學校は全人的であり、特に女子社會事業學校は高度の全人的機關である。救護の第一線につく女子現業家は、必ず分立する女子社會事業學校に於て養成されなければならぬ。男女は社會事業に於ても共學すべきではなく、各別なる教育機關をつくり、女子は特設されたる女子社會事業學校で教育することゝしなければならぬ。男女共學制は女子固有の性情と特技を殺すものである。

獨逸では主として（大學に於ける社會事業教育も導入せられつゝあるが故に）特殊社會事業學校制を探り特に女子社會事業學校は獨逸で全盛を呈してゐる。現今獨逸には一九二七年現在で左の三十三の特殊社會事業學校が開設されて居る（この外、Konferenz sozialer Frauenschulen 以外のもの二校あるから、一九二七年末現在のものは三十五校に上るわけである）

一、社會事業學校（社會女學校）

伯林、バルバロッサ街六五

校長、アリス・ザロモン女博士、及びアローツテ・チートリツツ女博士

二、獨逸福音協會基督教社會女學校

ハンノバア市、ウエデキンド街三五

校長、オーグスト・ジエルンス博士

三、カトリック婦人協會、社會及慈善女學校

ミュンヘン市、テレヂイン街二五

校長、ルイゼ・ジセルツデュン女博士

四、内國傳道會社女學校

伯林、カルクロイト街八

校長、リユートレンベルグ男爵夫人

五、エル、フェルド社會事業學校

エルバアフェルド市、ストラスブルゲル街四五

校長、エルフェルス牧師

六、社會教育女學校

ライプチツヒ市、ケーニヒス街二一〇

校長、マーガレット・ヂツク女博士

七、ヘツセン、ナツソウ社會事業學校

フランクフルト、ア、メーン市、ザイレル街三一

校長、ベルタ・ザツクス女博士

八、ケルン市、社會事業學校

ケルン市、ライナウズ街九

校長、アマリイ・ロウエル女博士

九、社會女學校

マンハイム市

校長、マリイ・ベルネイス女博士

一〇、カトリック婦人協會社會女學校

アアヘン市、ウキルヘルム街八四

校長、マリイ・オッフエンベルグ女博士

一、婦人基督教奉仕聯盟社會女學校

ドレスデン市、コールバツハ街七

校長、ヘルリツヒ師

一二、社會教育學校

ハンプルグ市、ムーワンデン街二四

校長、マーガレット、トロイゲ女史

一三、ライン女子専門學校

デユセルドルフ市、カゼルネン街三一

校長、エツケルト女博士

一四、社會事業學校

ミュンステル市、フェール街六

校長、アンナ、シユルチュ女博士

一五、社會女學校

ブレエメン市、ベルチエル街九

校長、メエビユウス女博士

一六、女子社會専門學校

カイゼルベルト

校長、バルケ師

一七、女子社會學校

ストットガルト市、ジルベルビュルグ街二三

校長、ゲルンド、ゲフケン女博士

一八、女子カトリック聯盟女學校

ベルリン、シャロツテンブルグ、ケーニヒス街一七

校長、ボーラ、レグニエール女博士

一九、猶太人協會、社會教育専門學校

ベルリン、シャロツテンブルグ、ケーデ街二二

校長、アンナ、フォン、ギエルケ女史

二〇、福音社會女學校

フライブルヒ市、アデルホウゼル街二七

校長、チユリイ、シエンク女博士

二一、女子社會學校

ケーニヒスベルグ、クロゼル、ドンブラツツ三

校長、エリス、ボルテ女史

二二、女子農村社會事業學校

ステツチン市、クレツニウエル街二〇

校長、アンナ、イルメル女博士

二三、シユンヘン市女子社會學校

ミユンヘン、ボウゲンホウガル、キルヒブラツチエ三

校長、ホールマン・ハイム女博士

二四、シウレエウイツヒ、ホールタイン社會事業學校

キイル市、ニーマンズ街一〇

校長、マアガレット・ウエデマイエル女博士

二五、プレスロウ市女子社會事業學校

プレスロウ市、マルテセル街一六

校長、ルイゼ・ベツセル女史

二六、獨逸慈善聯盟女子社會學校

フライブルヒ市、ウエデル街四

校長、エルゼ・ペーレンブーム女博士

二七、女子社會學校

タアレ、ア、マルツにあり

校長、マリア、ケルレル女史

二八、福音女子専門學校

伯林、ポツダメル街七三

校長、ジーベルト牧師

二九、社會事業學校

ウアイマール、ソヒエンハウスにあり

校長、マルゴツト、パアジツグ女博士

三〇、社會事業學校

ダンチツヒ、ランガツセ七三

校長、エルゼ・グラボウスキイ女史

三一、イエナ大學街社會事業學校

イエナ市、レオサクゼ街三一

校長、アンナ・ギエルコン女史

三二、女子社會學校

ドレスデン市、ウキルヘルム皇帝街七

校長、ロツテ、シユリツグ女博士

三三、女子社會學校

ハイデルベルヒ、コルンマルクト五

校長、グライムベルグ男爵夫人

参考文献

十三章 十四章の参考文献併用。

第十六章 社會事業教育と綜合的方案

社會事業家は（一）固有性、（二）知識、（三）經驗、（四）理想の綜合したものである。これに對し、社會事業教育は單に知識を教授することだけでは社會事業に所謂教育といふことはできない。社會事業には知識の外に經驗（*Können*）を有たなければならず、それは又固有性の上に造營しなければならぬ。社會事業家としての固有性とは人間の運命と社會の構造とを了解し、それを綜合する能力、性質であり、乃至、犠牲的な人間愛と人間に同情する心情である。かくの如き性質を持ち合はすことなくしては、如何に高き知識と深き經驗とをもつと雖も、畢竟、人間愛の術に進む社會事業家たることはできない。社會事業にいふ能力（*Fähigkeit*）と資格（*Fertigkeit*）とは無論知識の獲得によつて生ずるものであるが、又それ以上でもある。社會事業を行ふ能力はこれに要する教科を完全に學んだ上で經驗を積み、知識と經驗とを結合することによつて得られるものである。この種の能力は全人的教育を遂行しうる特殊社會事業學校に於てのみ獲得せられるのであり、組成的な教育によつてのみ實現せられるのである（非組織な講習會などに對して）

但し、單なる組織的教育は社會事業教育の目的を完成したと言へぬ。組織的教育は多くの場合形式的知識を所

有せしむるに過ぎず、抽象的概念的知識を具備すだけで、これによつて、個々の場合に應用する技術に熟達せしむると見做すことはできない。社會事業に於ける知識は抽象的普遍的知識の外に、これを個々の事實に適用する技術を併せもつものでなければならぬ。そこで、社會事業の教育方針は單に教材教科の傳達につきる如きものにあらず、個々の事實を處理しうるが如き能力を獲得せしめることにも及ばなければならぬ。かくの如き教育方針によつて始めて、學生をして單に普遍的知識を持ち合すのみならず、臨機應變、如何やうにもそれを個々に適用する技能をもたせることができる。社會事業教育は學科の詰め込みにあらず、それを咀嚼して獨特の見解を開しうる能力そのものを獲得せしむることを目的とする。すなはち、知識にあらず、知識を造り出す能力を目標として社會事業教育は行はれなければならぬ。

然るに、普遍的知識を適用する個々の事實とはこの場合個々の人間を意味しなければならぬ。社會事業の對象は先づ個々の困窮者に向けられるであらう。然るに、個々の困窮者は斷片的のものにあらず、諸々の部分的困窮の綜合したる結合體である。個々の困窮者の全的な人格と、その環境とをつくし、これを環境に適應せしむることが社會事業に謂ふ處理 (Behandlung) の意味である。然らば、特殊的範圍のみに通ずるところの該範圍の専門家たるものゝ社會事業家たりうべからざるは明かである。社會事業家の立ち向ふものは綜合的な人間であつてその部分や要素ではない。人間は生ける全體であるが、部分や要素は死せるものである。人間は部分の集合に

よつて現はれざるもので、所謂創造的綜合によつて出現するものである。

社會事業家は人間の部分や要素を見且つ知るものではなく、その處理する人間は全體的な人格 (Persönlichkeit des zu behandelnden Menschen) である。それ故、社會事業家は先づ身體並に精神の知識を所有しなければならず、更らに、これを結合する用意をもたなければならぬ。社會事業對象は多角 (Vielseitigkeit) であり、諸々の側面は綜合して全體を形づくる。個々に即して多角な綜合體の上に抽象的知識を自由自在に適用するものが社會事業家であり、社會事業學徒である。社會事業は人間の價值と人間の品位と權利とに立脚して全的に人間を生きかへらせんとする國民文化である。人間の價值と人間の權利とを恢復し、更らに、これを擴張發展して國民文化を促進し造營するもの即社會事業である。

社會事業は綜合體であるから、これに基いて教育方針を樹て直さなければならぬとして、獨逸では、これまで分立せし保健保護 (Gesundheitsfürsorge) 少年福利 (Jugendwohlfahrt) 經濟保護 (Wirtschaftsfürsorge) を綜合する方針をたてた。この三者を綜合する保護方法を獨逸では家庭保護 (Familienfürsorge) と呼んで居る。家庭保護は家族を全體として把握する謂ひ (die Totalität der Erfassung der Familie) であつて、家庭は保健的教育的、經濟的側面を分立せず、これを綜合するものであるから、家庭的保護は三者に共通しこれを結合して全體保護にいたるものである。これに應じ、社會事業家たるべきものは部分的知識の所有者であつてはならず、三

者を一樣に所有するもの即ち綜合的知識を領有するものでなければならぬ。

獨逸では所謂統一教育 (Einheitlichen Erziehung) を施すこととし、それに必要なるべき保健的並に教育的知識を二年間を以て修得せしむる案をたてた。その上、實際を必要とし、二の範圍に於ける知識を實際化する方針である。社會事業は生活上の經驗 (Lebenserfahrung) と多角 (Vielseitigkeit) とに立脚するから、その職業も統一的結合によるものでなければならぬ。生活上の經驗は人生の諸々の側面に一時に一樣に接觸することによつてのみ得られるものであるから、生活上の經驗に終始する社會事業教育は諸種の知識と經驗とを同時に一樣に修得するを目標としなければならぬ。諸々の知識と經驗との謂ひは一が他と融通し結合することによつて、對象の知識を一層深化するのであり、實は對象は構造であり全體 (Struktur, Ganzheiten) であるが故に、これを結合することなくして對象を理解すること能はずとする見地である。それ故、社會事業教育が一範圍に偏し特殊化するときは、社會事業知識を狭小にし貧弱にすることを免れず、社會事業知識ならぬ部分的要素的知識を獲得せしむるに過ぎざることとなる。この場合、社會事業知識とは、無論構造と全體とによる全一的知識のことである。

學校に於ける社會事業教育は保健と教育と經濟とを三者専攻の學生にも一樣に授け、これを分科としないやうにする。社會事業學校に入る前に醫學的、教育的、經濟的學科を習得せしものは何づれも一樣に三者を通じて教

育し、これ等を結合する教育方針を探らなければならぬ。前學校教育としての醫學的知識、教育的知識、經濟的知識は社會事業學校に於て結合せられ、統一的なものとなる。それに、學生の前學校教育が異つて居るといふことは社會事業教育の性質上望まじきことで何の防げにもならぬ。前教育が多角なれば、學生は相互の知識を自づから交換し合ひ、これを結合して共同的なものになす機會をつくり出す。學生が交互的に學び合ひ、多角な知識と經驗とを統一的なものに結合するのは社會事業教育に望まじきことである。そこで、教育年限を二年とすれば、第一年は統一的教育となし、保健、教育、經濟を合せ授け、又、三者共通なものとして學科を編成すべきである。第二年度にいたり、實際的學習をなすこととし、専攻科目に従つて分化するやうにする。實際的習練は社會事業團體について別に修得させても宜い。

試験は矢張り統一的なものとなし、専攻科目によつて部分的考查を加へず、いづれの科目にも向くやうに考查を施すべきである。これによつて、部分的考查は廢施せられるといふ見解に達する。

これまでの經驗を通じて社會事業學科の範圍に加へらるべきものは漸次確定しつつあり、社會事業に於て人間を處理するに必要なりと考へらるゝものは左の如く見られつゝある。

- 一、經濟的學科——社會事業、國民經濟學、社會政策
- 二、教育的學科——心理學、教育學、教育的保護

三、衛生的學科——衛生學、衛生的保護

四、形式的學科——法律學、行政學

參 考 文 籍

1. S. Wronsky, Richtlinien für Lehrpläne an Wohlfahrtsschulen, Deutsche Zeitschrift für Wohlfahrtspflege, 6, Jahrgang, Nr. 3.
2. A. Salomon, Soziale Frauensbildung und soziale Berufarbeit.

第十七章 社會事業家養成の綜合方針

社會事業の對象が綜合的で不可分なるからには社會事業教育も亦綜合的であり、社會事業家の養成と造成とも亦綜合的でなければならぬ。社會事業學校に於ける教育は分科的なる能はず、綜合的なるべく、社會事業家の養成は分科に於てせず、綜合的組織の方針に依らなければならぬ。

獨逸の社會事業經營方針とその教育方針とは綜合的な Familienfürsorge によつて代表せられて居る。獨逸では屢々分科的な保護を Bezirksfürsorge として表示し、兒童保護と保健保護と經濟保護との三の範圍を併せ含む保護を綜合的なものと見、これを Familienfürsorge によつて表示して居る。一九二二年の調査に據れば、七十都市中三十六都市は家族的保護の主義により、尙その中、二十六都市は嚴に家族的保護を勵行して居る。Dr. Clements Floto はすべて保護は綜合的な個人的（個人の部分にあらずる）なものでなければならぬとして、Alle Fürsorge, auch die sozialhygienische bedarf letzten Endes der persönlichen Beeinflussung und Erziehung, diese aber ist nur möglich auf Grund eines Vertrauensverhältnisses zwischen Fürsorgerin und Hilfsbedürftigen oder besser der hilfsbedürftigen Familie. (Das

Grosstädtische Gesundheitsamt S. 35) と言つて居る。そこで、フ氏は fachlichen Bezirksfürsorge を allgemeinen Familienfürsorge に轉化するを要すると考へる。マリイ、バウム女博士も亦保護は原則として生命の神聖なる不可分 (heilige Untheilbarkeit des Lebens) たるべきであるとなし、分化はその範圍では可能としても、保護の世界には流通せざるもので、それは人間の部分たる疾病とか、不具とか、老衰とかといふやうなものを對象として部分的に進むのではなく、人間とか人間的運命とかいふ全的なものを對象として、統一的見地によつて進むべきであると言ひ、例によつて明快なる學論を試みて居る。米國のダヴィス博士も亦疾病の取扱ひでさへも、病者といふが如き人間的部分を對象とするのではなく、その對象は人間であるといふ意を明かにし、We need consideration of man as well as of disease, because only through knowledge of the larger problem can come adequate treatment and permanent result — There is every reason then to encourage the most thoughtful consideration of the whole problem presented by the patient, in its medical, public-health and sociological aspects (Dispensaries, Their Management and Development, p. 72) と言つて居る。これ等の見解は何れも社會事業對象を以て不可分であり、全的であり、更らに、総合的であるとする見地から出發するものである。総合的見地により、プロシアの社會事業學校は經濟保護、保健保護、兒童保護の三分法を廢して、バウム博士

の Untheilbarkeit der Familie 主義に基き、Gesamten Fürsorgewesens の知識を要すとなし、統一的教育方針を樹立し、分科的な兒童吏員、保健吏員、經濟吏員を養成するよりも、総合的な福利吏員 (Wohlfahrtsplegerin) 又は社會吏員 (Sozialbeamtin) を養成することを目標として居る。

社會事業家の養成には理論的と實際的とにわたらなければならず、兩方面の學科を並せ授けなければならぬが、何づれにしてもそれは實際の需要を目標となすべきである。然るに、實際的素養は先づ分科的なるよりも総合的なるを要し、全體的課程に依らなければならぬ。それ故、社會事業家の養成にしても、福利局、兒童局、保健局の運営にしても、各全一的見地を探り、Einheitsfürsorge 若くは Familienfürsorge を目標としなければならぬ。そこで、分科的に兒童事業、保健事業、經濟保護事業を學び、又かやうに教授すべきにあらず、先づ、三分法的教授を撤廢して統一的な教授法を採用することにしなければならぬ。社會事業學校に於ける教育は統一的であり全的であつて、分科的であることはできない。社會事業學校では理論と共に實際を教へ、經營上の方法や技術に習熟せしむるが、その教育方針が総合的であることに於ては毫も變りはない。分科的知識の獲得は社會事業學校の前に來らなければならぬ。兒童事業、保健事業、經濟的保護事業を分科として専門として追及することは専攻家をつくり得るが、それによつて完全なる社會事業教育を獲得させることはできない。社會事業學校ではこれ等三分科をこえて、その統一的総合的な基礎知識を獲得させなくてはならぬ。これ等総合的基礎知識の上

にのみ始めて三分科の各々が完全なる知識と技術とを開拓するであらう。なほ、小分類にわたる知識、たとへば病患看護、隣保事業、不良児保護、飲酒家保護、墮落女保護といふが如き特殊範圍の取扱に於ても、一般的知識を前提としなければならず、これ等小分類の専攻家たるに於ても社會事業學校では統一的知識を授け、入學前特殊分科に入入する順序をふませなくてはならぬ。社會事業家たるべきものは一般的知識と、多角な經驗の上に立たなければならず、これより出發して特殊範圍の開拓をなさなければならぬ。社會事業家、社會事業吏員、社會課の基礎たるべきものは、社會事業の全領野にわたる知識と經驗の獲得であり、多種多様の經驗の所有である。その上、人間的知識と體驗と理想とを有し、人間を部分としてではなく、全體として取扱ふ見地に立たなくてはならぬ。社會事業にあつてはその他の領野に於けるが如く、特殊化するのではなく全體化するものであり、分科的たるのではなく総合的たるのである。これ、社會事業が人間の部分を對象とせず、不可分なる神聖なる全的人間と人間性とを對象とする當然の歸結である。すべての社會事業分枝は内的に自他從屬し合ふ性質をもつから、各分枝の存立は他の分枝を回顧し、それに依存する形ちをとる。不良児の保護と言つても、その身體の邊よりするもの、精神の邊よりするもの、經濟の邊よりするものがあり、教化事業、保健事業、經濟保護事業は彼此係はり合ひ分離することはできぬ。貧困者の問題は經濟的なるばかりでなく、それは同時に疾病の結果たるべく（貧窮の原因の四〇％は疾病に因る）又教育不足のためなるべく、經濟的保護はその他のものと係はり合ひ、錯綜關係を

つくるであらう。社會事業分枝及其その部分的對象は総合的な全對象に依存し、それに依ることなくして存立することができぬ。特殊の専攻者と雖もその基礎は総合的なもの全體的なものであるから、經濟保護、兒童保護、保健保護にわたり、これが基礎的要素をなすものは総合的なものである。よつて、何づれにしても、特殊範圍の専攻家は共通な基礎的知識を先づ獲得しなければならぬ。それ故、部分より出で、全領野を見渡すにとのできるものが最も完全なる特殊範圍の専攻たるに適する。一般的知識を豫想することなくして特殊知識を考ふるをえず、又、かやうな特殊知識なるものなく、縦へこれあつても、それは有効なものではない。人間的知識、體驗的洞察、全一的見解のみが特殊社會事業知識の基礎をなす。人間と人間性とを悟了することなくして、部分を見それを捉える如きものは眞の社會事業知識を捕捉したものではない。經濟専攻者は一方的に經濟的知識を所有するのみで、教育には門外漢であり、疾病には没交渉であるといふ類であり、その他の専攻者もこれと同様なものたる限り、彼此錯綜關係の上に総合的對象をつくる社會事業現象に肉薄することはできぬ。こゝに於て、社會事業教育なるものは必ず総合的なものであり。一般的知識の上に成立する Familienfürsorge ならざるべからざる理由を知る。社會事業家の養成は一方的な經濟的教育、保健的教育、一方的な兒童教育といふが如きものでなく、これを結合せし上に生ずる經濟的保健的教育的錯綜教育でなければならぬ。

社會事業學校では一般的総合的知識と、それに従つて、全一的體驗的素養をもたせるが、少年教育、病患看

護、乳兒保護といふが如き特種任務に服せんとするものは、社會事業學校へ入るにあたり、前以てそれに相當する教育若くは經驗を得なければならぬ。病患看護に當るものは病院、兒童保護に當るものは幼稚園若くは託兒所に於て夫々特殊な經驗を積むを要する。社會事業學校では一般的知識を授くるのみであるが、その學生は前教育の教育的なるか、保健的なるか、經濟的なるかによつて卒業後専門的職業に就くようになる。學校ではそれ等の學生は或は保健、或は經濟といふが如く、特殊題目に偏傾するから、全體的教育の堂に上ることができない。従つて、これ等特殊の素養をもつ學生には力めて総合的な教育を授けなければならない。保健保護、兒童保護、經濟保護といふが如き特殊の見地は一般の見地の獲得を防げるが故に、社會事業學校では特殊範圍をこえて *einheitlich, gleichmässig* な教育を施すようにする。學校では一般的形式と全體的體驗とを得させることを目標とするが、特殊範圍に出入するものは別にそれに相當する學習を積まなくてはならぬ。

総合的な家族的保護は看護婦や幼兒を取扱ふ保母をつくるのではなく、人間であり、人間性をもたせんとして焦心するのである。総合的な家族的保護はそれ等特殊任務の基礎たるべきものを供給するを目的とする。それに應じ、総合的社會事業家若くは *Wohlfahrtspflegerin* は直ちに特殊的任務に就くことはできず、特殊的任務に對してその前教育を豫想する所以については既に明白である。

参考文献

1. F. Menelstorff, Zur Ausbildung der Wohlfahrtspflegerin, Deutsche Zeitschrift für Wohlfahrtspflege, 6. Jahrgang, Nr. 1.
- M. Baum, Grundriss der Gesundheitsfürsorge, 1919.
3. A. Salomon, Die Ausbildung zum sozialen Beruf, 1927.

第十八章 社會事業家

一 綜合的全體

社會事業家は知的側面よりするも、知識と實驗と理想との關係よりするも綜合的なものである。社會事業家のうちには、社會事業には知識や理論は要らぬ、時に却つてそれは有害であり、實際と經驗とで十分であると言ふけれども、かゝる社會事業家は未だ以て社會事業の固有性を了解しないものである。理論家はこれに對し實際と經驗とは迂遠で淺薄で物の役にも立たぬような口物を以て應酬する。是又、社會事業に於ける知識と實際、理論と行動とが不可分の關係にあるを知らないものである。社會事業に於ては知識と行動 (Wissen und Handeln) と思惟と動作 (Denken und Tun) とは結合せられて不可分の關係をつくつて居る。社會事業では知識は知識のための知識でなく、やがてそれが行動化する知識であり、思惟は徒なる思惟ではなく、動作に變化する前提に於ての思惟である。その外、知識と實際、思惟と行動との結合によつては未だ全からず、二の合流するところに理想が現はれ、始めて社會的行動が完了せられる。社會事業に於ては知識と實際と、若くは思惟と行動とは一定の世界觀を目標として進むのであつて、單に知識と實際との結合に終るべきものではない。社會事業には理想が何

よりも大切である。單なる知識や行動のための行動は社會事業固有の知識でも行動でもない。知識と行動とは理想に向けられ、理想化する性質を帶ぶことによつて、始めて社會事業に所謂知識たり行動たるをうるのである。なほ、社會事業には固有性 (Eigenheit) が必要である。社會事業家には一定の固有性が具備されかくの如き個性によつて進めらるゝところに始めて眞の社會事業行動が現はれる。社會事業に所謂固有性とは一定の身體的並に精神的前提をもち、一定の性格力と感情とを具備し、犠牲的な人類愛と、人類に對する信仰と、同類に共鳴感應し、且つ、それを理解する能力とをもち、それが一定の理想主義にまとめられたものである。かくの如き固有性を具備することによつて、知識と行動と理想とがその進むべき動力を得、自からの如く他を思ひ感ずることができ、その運命を見とける熱情が現はれる。愛と温情とのない社會事業行動なるものは無殘な似而非な行動である。慈善事業は個人形態に屬するが故に人間より人間への救助を成し遂げ、豊かに愛と同情と犠牲とを表現することができるが、社會事業は集團的なものとなり、抽象的な「人間全體」とか「貧民全體」とか「勞働者全體」とかといふこととなり、温情はかれ愛は失はれると見らるゝであらう。併し、集團化せし社會事業と雖もそれが愛の行動たる限り、終局、それは愛より離れ去ることなく、また、社會事業は性質として個人的なるを得るから愛をいれ、愛の行動として續くことができると考へられる (社會事業が集團化せし後と雖も、個人的なることに従つて愛をいれうることに關しては「社會事業概論」第一篇、第三章、第四節「社會事業と社會政策の分

界」及び、同書一編、五章、一節「個人と集團」に明確に取扱つてをいたから、それについて考査し、著者の論旨を補足せられたい。そこで社會事業の固有性のうちには愛が入り込み、それが日に月に成長發展する理想に結びつくこととなる。

固有な社會事業的性格（固有性）がなければ社會事業に従事するも、それによつて何等同類の悩み苦みを取り去ることができず、その生命の中へ入り込むこと能はず、單に事務的に器械扱ひをなしうるに過ぎない。形づくつて魂つくらぬ現時流行の社會事業は似而非なもので、純真な社會事業にあらざるは一見明白である。社會事業界に入り、そこに人類を益するが如き働きをなすには、その前提として社會事業にふさはしき人柄が具備されなければならぬ。この人柄即固有性である。一定の固有性、個性が前提となり社會事業行動なるものが現はれる。冷酷無殘な性格の持主や、名利榮達を打算する商賣人根生が社會事業の固有性たり得ないのは餘りに明瞭である。それ故、社會事業家たるには知識よりも経験よりも先づ一定の個性をもつて生れて來ることを條件とする。すなはち固有性は社會事業家としての前提でなければならぬ。社會事業家を養成するとはそのもてる固有性を引きのばしてやることで、無より有は生ぜずの原則により、個性のないところに固有性を造り出す義ではない。社會事業家は造つたものでないといふことがこの場合真である。これによつて社會事業家養成の前提は固有性をもつ社會事業家候補を見出すことであつて、單に知識を授け實際と經驗とに習熟せしむる謂ひではない。如何なる

知識でも同じであるが、特に社會事業學校や社會事業家養成所では、先づ社會事業家として適當な固有性を有つものを選抜し人學せしめなければならぬ。社會事業家は知識を輕んじ、經驗偏重を常套とするが、それよりも固有性をもつと大切である。社會事業に適當なる固有性なければ、如何に經驗を積み實際に優れて居ても畢竟何等用ゐるところなく、強いてこれを用ゐれば正宗の名刀を強盜に渡したと同様な行動さへも現はれるであらう。固有性なくして知識と實際とに優れば優れる程却つて害を加重するであらう。

こゝに於て、知識偏重若くは經驗偏重といふような世上流通する通説を以て社會事業家の資格に擬することはできない。社會事業は性質としては知識萬能なものでは無論ない。それは知識の故の知識でなく、社會事業にあつては知識は必ず行動に變化しなければならぬ性質のものである。茲に知識と行動、理想と經驗若くは實際とは綜合せられる。社會事業家は單なる學者でもなく單なる經驗家や實際家でもない。知識あつて經驗に長し、實際に熟して知識あるもの即社會事業家である。その上、社會事業家は理想をもち、固有性をもたなければならぬ。ここに理想的な社會事業家が現はれる。これによつて、社會事業家とは綜合的全體で、その部分にあらざることを知る。社會事業家は單なる知者、經驗家、理想家、熱情家（固有性を具備する）ではないことが分らう。これ等四要素四條件の具備するもの即社會事業家たりと言ふべきである。そこで、社會事業家とは部分的のものにあらず、綜合的全體の見地に於て言はるべきものなるを知る。

次に知識より見る場合にも、社會事業は綜合的全體である。社會事業には部分的知識といふが如きものは存しない。社會事業に所謂知識とは綜合的なものである。貧民事業は經濟保護事業と關聯し、兒童保護事業は教化事業と不可離の關係にある等、社會事業に於ける各論的知識は凡て他の分枝を豫想し、それに綜合しながら部分的知識を形づくつて居る。一般社會事業とはその他の四分枝（「社會事業概論」第三編第一章の分類論を見られたし）と關り合ひながらそれを中心とするものをいひ、保健社會事業はその他一切を引き具してその中心となるものを言ふ等、その中心は分枝によつて異ふけれども、その他一切のものに關はり合ひながら進むことに於ては何づれも同一である。こゝに社會事業知識固有の姿がある。社會事業知識は分科的のものにあらず綜合的のものである。著者は「社會事業學原理」第一編第七章に於て社會事業の對象が綜合的な所以を明かにし、第八章「獨逸社會事業の綜合性」に於てその具體的例示を獨逸社會事業に求めその綜合性を明かにして居る。社會事業には分斷といふことは許されない。すべて綜合に究極するといふのが社會事業の本性である。

これによつて、社會事業は知識の見地よりするも、知識と實際の見地よりするも綜合的なものたるを知り、或は知識偏重或は實際偏重の謬妄なるを了解することができ、社會事業家の本質は從つて明白になると思ふ。

二 社會事業知識の性質

社會事業知識と言はるべきもの、綜合的な所以については既に述べたが、更らに、その内容に立ち入つて吟味しなければならぬ。

社會事業知識と言はるべきものは綜合的なものである。或は經濟的、或は保健的、或は教化的といふように分斷されし知識なるものは社會事業に所謂知識ではない。社會事業知識は多角であり多形であり、雑多な種類とその綜合との上に成立するものである。社會事業家は單に貧民を知るのみであり、單に兒童を知るのみであり、單に病者を知るのみである等、分斷的専門的見地よりその事業を進めることはできぬ。社會事業の範圍にまで分科的構想が入り込み跋扈し、特殊範圍の専門的取扱に得々たる體あるは未だ以て社會事業の何たるを辨せざるも、社會事業知識の性質を知らざるものである。社會事業は綜合的なものであるから、經濟保護に關してもそれは保健に結びつき、それは教化に出入する等、それからそれへと綱が張り渡されるであらう。これ等諸々の紛糾錯綜關係に同時に入出入するもの即ち社會事業家である。總ての側面を擁護する科學的取扱は雑多な見解を必要とするのであつて單一なる眼孔より社會事件を取扱ふことはできない。社會事業にあつては如何なる特殊範圍たりとも、特殊範圍を専門的に見且つ知る外、これを結合體となし、結合關聯の見地より眺むる主義と習慣とが在る。特殊範圍を特殊範圍として取扱ふことのみを優れて高き方法のやうに考へて居るが、かゝる分科的見方は社會事業に於ては誤つて居る。それは社會事業分枝分斷不可能の原則や（「社會事業概論」一八二頁）社會事業對象

の綜合性が許さない。社會事業にあつては特殊範圍と雖も、他の一切の特殊範圍を同時に眺むることによつて、該特殊範圍がその他に如何なる實際的關聯をもつやを見且つ知らなければならぬ。社會事業は分科的な學習によつてその知識を獲得することはできぬ。よつて、その社會活動は眼孔を大にし、社會的關聯を外的に次に内的に綜合してその實體に肉薄しなければならぬ。社會事業家が特定分枝の知識を獲得し、又それを用ゐることは、やがてそれが他の分枝に關聯をもつといふ見地をとれば、該特定分枝の知識は益々光を放ち有用となるが、若し、それを他の分枝より切り離し、夫れ自づから孤立すると考へるなれば特殊的知識は綜合的全體の見地より寧ろ無用の長物であると考へられる。特定分枝の研究はそれによつて一範圍の社會事業を明かにしうると共に、他の分枝に關聯することによつて、益々特定分枝の真相を明かにすることができる。社會事業家たるには特殊範圍を選定し専門化しなければならぬが、他の特殊範圍に踏み入り迷ひ込んで歩きまわることも無用の業ではない。それによつて諸々の範圍に出入することができ、社會事業の關聯を明白にすることができる。社會事業家たるにはその取扱ふ範圍を時々變更し、他の見地より關聯を眺むる習慣を造るべきである。たとへば、失業救済を經濟的のみ取扱ふものはその倫理的並に精神的關聯を無視し易き心的態度をもつて居り、病者を醫療的に取扱ふ職業をもつものはそれを保健的に見るばかりで貧困と關聯することを逸するなど、兎角、その態度は局部に偏重するを免れぬ。かゝる場合、失業の經濟的保護は精神的倫理的見地に一時引きこすべく、病者の保健的保護は一般的

な社會事業見地に引き移るべきである。かくて、いろいろの範圍を基點として他を眺むる習慣が發達し、總ての範圍に通曉することができる。こゝに綜合されたる全體觀が生じ、優れたる救助方法が現はれる。全體觀の關聯を基準とし背後として各分枝を眺め取扱ふことによつて、その日々取扱ふ小範圍に於ける微細な事業に全體的色彩を與へ、もつて、人生觀を構成し、理想の下に堂々特殊範圍の分斷的の事業と見地とを高揚することができる。

社會事業家は社會經濟學社會倫理學といふような一般的知識の基礎を有たなければならぬが、それと共に、その分掌する特定範圍の知識と實際とに習熟しなければならぬ。その上、諸々の知識範圍を綜合する用意がある。貧者と言つても、病者と言つても、失業者と言つても、學の便利に従つて分類するようなものではない。貧者は經濟的なると共にそれは身體の欠陥にも關し、それは無學なることにも因るであらう。病者は單に病理學上の欠陥所有者たるばかりでなく、貧困が又その原因をなすであらう。社會事業家には特定範圍の技術と方法とに關する學習は欠くことができないが、それ等を廣汎なる人生觀にまとめる事は一層必要である。社會事業家は特殊技術とその方法の學習より轉じて、經濟學や倫理學や國家學や宗教學の研究を怠らず、それによつてその技術を基礎づけ廣き深き高き人生觀を築き上げなければならぬ。かくの如き最後の關聯の下に始めて究極的障害に對應しそれを治療することが可能となる。

社會事業知識の性質かくの如しとすれば、社會事業家は經驗や實際ばかりで十分その資格を具備させることが

できないから、更らに、特殊範圍への習熟と、他の範圍に關する知識の獲得と、一般的基礎的知識の具備と、それを全體的見地に結合し人生觀世界觀を造り上げる用意がある。こゝに始めて理想的な社會事業家が現はれ出づる。單に實際と經驗とのみをもつに過ぎざるが如きものは似而非なる社會事業家であるが、世に謂ふ社會事業家とは多くかくの如き似而非な卑小な社會事業家である。

三 知識と技術

社會事業は學であつて知識に向けられると共に、それは又技術である。佛蘭西の René Worms 博士は社會事業は科學であるばかりでなく、それは又技術であるとして、それを Ars として表示して居られる (Worms, La Sociologie, Bibliothèque Sociologique Internationale, Paris, 1921) 科學は法則を求むるけれども、Ars は行動に向ふ。科學は過去と現在とに向ふけれども、A は將來に向ふ。科學を A に導くときは行動を深くし、深く深く世界に影響を與へることが出来る。ザロモン女博士はこの關係に最も明確なる分析を施し、社會的作業には實際的行動に向けられたる理論がある。該行動たるや人間を全體としてその福利を圖ることを力むるものであると云つて居られる (Die soziale Arbeit braucht weiterhin eben eine auf das praktische

Handeln bezügliche Theorie, und zwar auf ein Handeln, das sich um das Wohl des Menschen

in seiner Totalität bemüht)

科學は純粹認識を目標とし、知識を内容と方法とその探求とによつて追及し、認識をはかるが、それは何づれにしても行動に及ばないものである。すべての認識は生存競争に役立つけれども、すべての認識はジンメル氏の言ふやうに實際的動作に及ぶものではなく、生命の保持と促進とに關はり合ふものでもなく、對象の中より選み出すことによつて、その内的な要求を充足してその固有な價值を産出するだけである (Erkennen nicht mehr zu der praktischen Leistung, für die Erhaltung und Förderung des Lebens hergibt, sondern Eigenwert geworden ist, der von sich aus die Gegenstände wählt, sie nach seinen inneren Bedürfnissen gestaltet und über seine Selbstvollendung nicht hinausfragt. Sie will nicht der welt eine neue Orientierung aufstiegen, sondern zum Erkennen führen) 社會事業に於ては知識と經驗と理論と實際とは不可分の關係にあり、社會事業知識は知識の故の知識にあらずして、行動に變化さるべき知識である。社會事業家の中には社會事業は經驗であり實際であると言ひ、經驗及實際偏重を主張するものがあるが、これは社會事業に於ける行動の側を重視するもので、全體として誤りであるけれども、全く誤りであるとも言はれない。社會事業に於て經驗と實際との重すべきはその他のものに越へ、單なる學校に於ける知識は社會事業には役に立たぬ。それが行動に變化さるゝ可能を豫想することによつて始めて社會事業知識た

りうるのである。然るに行動に變化するには經驗と實際とに習熟しなければならぬ。これなき知識は畢竟行動に變化しえざるもので、社會事業に所謂眞の知識ではない。社會事業知識の學習と獲得とは學んで而る後これを行動に變化することを目的とする。社會事業にあつては理論と實際とは緊密に結合しなければならぬ。一方、知識は行動に變化しなければならぬが、他方、行動は絶えず知識と思惟と判断とに伴はれ、これによつて批判され、その向ふ道を示されなければならぬ。知識と思惟と判断との伴はざる行動は盲目で無効である。經驗と實際とだけでは恰も燈火を以て照明せられず暗夜に彷徨ふが如きものである。理論と實際とが互に結合して人生觀を打開し開展し來らなければならぬ。言はゞ、理論も實際も一定の人生觀に達する手段たるまで、目的はあくまで理論と實際との合成するところに生ずる人生觀である。

社會事業知識は單なる知識にあらず、それは知識でもあると共に技術 (Kunst, Ars) である。知識と技術とが不可分の關係にあるもの即社會事業である。社會事業家の資格はこゝに於て明かに露出せられる。社會事業家は經驗と實際と技術 (Ars) の持主たると共に、それに光りを供給しその向ふところを知らしむる知識と理論とを具備しなければならぬ。理論と知識とを嫌ふ社會事業家は似而非なもので、眞の社會事業家は理論と經驗、知識と實際とを密着し結合させてその資格を全ふする。

四 理 想

社會事業家は單なる經驗家であり實際家であつては足りない。理想をもたないような社會事業家は眞の社會事業家ではない。理論や知識が如何に優れて居ても、理想のないような理論や知識は害あつても益はない。理想的な社會事業は理論を實際に變化する技量をもち、更に、これを理想に高める熱情をもたなければならぬ。理論と實際と理想とのないような社會事業家は悩み苦める者をその外形に於てその内觀に於て深く救ふことができぬ。社會的障害を軽減除去するには社會の暗黒とその欠陥とを如何にして除去せんかといふ人道的氣魄がいる。單なる物知りや單なる實際家では到底困難にして範圍の廣く大なる社會的障害と暗黒とを取り除くことはできない。道德と宗教とに深き理解をもち憧憬をもつものにあらざれば、人道的社會事業家たることをえぬであらう。社會事業の學論にも道德と宗教とは入り込むが、社會事業家の魂のうちに必ず道德と宗教との香りがなければならぬ。これによつて始めて健全な人生觀と世界觀とが生れる。

社會事業は社會的な知識であるよりも社會的な意志である。それは同類の悩み苦みに感應する理想の表現でなければならぬ。生ある力がなければ生ある社會事業は成立しない。社會事業は意志と心情との産物であり、最後に生命そのものである。社會事業は單なる知識や不明確な感情によるものではなく、個人を社會につなぎ、その

障害を軽減除去し、その人間性完成を企圖するものである。それは畢竟倫理的人世觀に歸着するものである。社會事業の中には必ず道德と宗教と形而上學とが入り込む。

五 社會事業家の特質

社會事業はその固有性と知識と實際と理想との融合する全體的産物である。全體といふことが社會事業家を特徴づける。社會事業の特質は固有性と知識と實際と理想との綜合するところに生ずる全體的なもので、その一或は二を具備するが如きものは未だ理想的な社會事業家ではない。

社會事業は全體に向けられるべきもので生命それ自づからを對象とする。社會事業は各分枝を綜合するに於て全體であり、また、知識と技術と理想とが融合するから全體となる。社會事業は總ての分科的科學知識を要しないが、その中、人間の困窮と福祉とに關し、その運命にかゝる如き科學的知識を要し、それ等の科學的知識が併存するのではなく、全體をつくつて綜合するを要する。分科的見方は社會事業には關係がない。社會事業にあつては一の新らしき見方即ち綜合的見方が要り、人間の全體 (Totalität des Menschen) を目標としなければならぬ。なほもう一つの見方は社會事業に於ける科學的知識は實際的課題 (praktischen Aufgaben) に向ひ、それに緊密な關係を有つことである。社會事業知識は分科的な理論的知識に關はず、人間の了解と、その獨特な

ることゝ、その一度限りの歴史的なものなることゝ、その不可分なることゝに關はり合ふ。理論的知識を技術として實際に適用し、人間の見地より歴史的な不可分的全體を取扱ふもの即ち社會事業である。

社會事業家は學者の如く科學的知識のみを追求せず、それは理論を技術に接合する特色をもつ。但し、技術の故に技術を用ゐるのではなく、無意義に理論を技術につなぎ合はすでもない。それは人間の了解に向つてなされ、人間を了解することによつてその一種獨特な固有性を見付け、それに向つて理論を技術とを用ゐんとする。なほ、社會事業家は對者を一度限りのもの、更らに、不可分的全體として取扱ふ。こゝに社會事業家の科學者とも實際家とも異なる風格が偲ばれる。勿論、社會事業家は純粹知識と科學的方法とに終始する學者ではない。それかと言つて、社會事業家は單なる實際家でもない。社會事業は實際の外、知識を要し、知識を技術につなぎ合はす使命をもつものである。それに實際家は理想をもたなくても宜いが、社會事業家には必ずこれがある。知識や實際よりも理想は社會事業家としての資格の第一條件である。それに實際家は人生觀世界觀を持たなくても宜いが、社會事業家には一定の人生觀世界觀は不可分である。何かか人生觀世界觀を持たずして困窮を軽減除去し福祉を増進する働きをなすは無意義ではないか。困窮の軽減除去と、福祉の増進と、消極、積極、綜合、超越の四道を通じ人間生活の完成を企圖するには博大崇高なる人生觀と世界觀とが要る (「社會事業學原理」第一篇第四章参照) かくの如き一種獨特な社會事業家に對し、單に實際家を以て自からを低くする一部の社會事業家は

自から卑賤の位地につくものである。社會事業家は學者の如く科學的知識と科學的方法とにつくるものではなく、科學的心情 (wissenschaftliche Gesinnung) と、心的可能性と、實際的課題に對して獨立な判斷力をもたなければならぬ。科學的知識を輕視し回避するが如きものは社會事業家ではない。社會事業家は科學的知識を飢え渴く如く求むるものであり、これを實際に適用し、如何にして人間の困窮を輕減除去し、更らに、その福祉を増進せんかを考案するものである。人生の改造とその形式とに向つて科學を用ひる技術者即社會事業家である。これに對し科學者は單に知識の故に知識を求めらるものである。社會事業家は人間的個人的課題 (menschlich persönlichen Aufgaben) にふたはしき職業的道德觀 (Berufsethos) を有たなければならぬ。社會事業家にあつては理論家と實際家とは不可分の關係をつくつて居る。社會事業に於ては理論と實際とは不可分であることにつ

Sp. Wilhelm Filtner 氏は das die wissenschaftlichen Reflexionen sich sowohl auf die Erfahrung eines grossen Tatsachenbereichs als auch auf einen helfenden, schützenden Willen stützen, und das die Tatsachen sich nur den Verantwortlichen erschliessen と言ひて居る。

社會事業家の社會事業家たるところは人間を全體として把握し、それを人間的見地によつて歴史的に一度限りのもの、不可分のものとして取扱ふところにある。知識と實際と理想と個性 (Einigung) とは融合して一定の人生觀世界觀をつくり、これによつて、困窮を輕減除去し、福祉を増進し、よつて以て、人間生活の完成を企圖

するものが社會事業家である。社會事業家は私の體驗的全一に居るもので、歴史的なものであり、歴史的全體のものである。その究極は本源體としての體驗的全一である。

参 考 文 籍

1. 海野幸徳「社會事業概論」第三篇第一章
2. 海野幸徳「社會事業學原理」第八章
3. 海野幸徳「社會事業概論」一八二頁
4. 海野幸徳「社會事業學原理」第一篇第四章
5. Salomon, Soziale Frauensbildung und soziale Berufsarbeit S. 55—85.
6. Salomon, Die deutsche Akademie für soziale und pädagogische Frauensarbeit im Gesamtaufbau des deutschen Bildungswesens.
7. Salomon Die Ausbildung zum Sozialen Beruf S. 88—115.
8. Rene Worms. La Sociologie, Bibliothéque Sociologique Internationale, Paris, 1921.
9. H. Weber, Akademiker und Wohlfahrtspflege im Volkstaat, S. 57—72.

第十九章 高級社會事業吏員

一 法科主義の任用法

高級社會事業吏員養成の必要は社會事業を實施する諸國に於て懸案の一となりつゝあり、獨逸に於ても既にその必要を認め (Dr. Jeserich, Zur Ausbildung unserer höheren Sozialbeamten, Deutsche Zeitschrift für Wohlfahrtspflege, 5/8) イェルリツヒ博士などは高級社會事業吏員を技術家として特殊化する必要を力説して居る。イ氏は獨逸の現状を叙して、「我國に於ける高級社會事業吏員は法科出身で、純粹技術的素養をもたぬものである。法科出身者は社會事業界を獨占して居る。これは國家概念と國家の任務との變化に照應する。舊福利並に警察國家にあつては法的規範は副次的位置にあり、行政が主なる任務で、純粹目的的に國家を統整すれば宜かつたが、前世紀の初頭に於て、法的國家なるものが出現した。行政に關する基準や規定は漸次に結晶し、それが成文法となつた。實際としての行政より純粹法的教科が分立するにいたつた」と言ひ、社會事業界に法科出身者の跋扈する原因を明かにして居る。獨逸に於ては法的國家の發達によつて、専門として法を解釋する吏員を要するにいたり、一般國家科學的素養をもつ吏員の出現となつた。こゝに於て、法的知識をもたぬ吏員はデイレツタ

ントとして輕視されるゝことゝなつた。但し、行政は單に法的規範の運用に盡きるのではなく、等しく行政組織の知識、行政の運行、行政機關の指導にも及ばなければならぬ。法的規範に終始する外餘技のない現代法科出身者は國家が經濟的乃至社會的性質を帶ぶるにいたり、これを理解し、これを運營すること益々困難になりつゝある。法科出身者は經濟と社會とに通ぜず、法學的思维方法を弄する外、複雑なる現代國家組織と社會組織とに適應することができない。現代國家に對しては單に法學的であるだけでは足りなくなつたので、その他の範圍を抱擁する技能を別に開拓しなければならなくなつた。法科出身者は國家の官吏として既に舊時代の遺物たる觀あり、新たに現代社會の要求する經濟と社會とに對してはデイレツタントたる觀あり、時の進むに伴ひ、この欠陥は益々國家實務の上に現はれ、行政は今や殆んど素人によつて運營されて居る觀がある。現時に於ける官吏たらんには經濟と社會との知識を要し、法學的教育に經濟的素養を加へなければならぬ。Clemens von Delbrück や Drews 博士などは法律専門の立場から、現代國家に官吏たるべきものゝ資格を更改しなければならぬことについて論じ主張して居るが、イェーゼリツヒ博士も亦同一意見を述べて Juristen sollen ihre monopolstellung für die höhere Beamtenlaufbahn, die sie zu Unrecht einnehmen, aufgeben; die wirtschafts- und sozialpolitischen Stellen in der Verwaltung sind mit fachmässig geschulten Kräften, d. h. mit Volkswirten zu besetzen と言ひて居る。

一般に官吏はその前教育を變改して新時代の要求に應合するものたらしめなければならず、それに應じて、現代國家の經濟的社會的性質を帶ぶるに顧み、官吏たるに要する資格も亦更改されなければならぬ。一般官吏に於て然り。社會事業に従ふ官吏は一層單純なる法律家であつてはならぬことは自明である。現時に於ては、社會吏員と雖も法律偏重で社會の知識を所有せず、その司掌する對象を理解せず、況んやその運用を全ふせんとするは全く望みなきことである。獨逸では社會吏員としては法律家の外に、純粹に經驗家もあり、醫師、宗教家、教育家としての特殊社會事業吏員も任用されて居るから、純粹に法的だと言ふことはできぬけれども、一般に法的偏重だとすることに於ては我國と同じである。我國に於ては下級官吏としてわづかに社會事業主事を半ば技術員として待遇するだけであり、一般に社會事業も亦法科出身者によつて運営せられて居る。自治團體に於ける社會事業吏員と稱するものも其任用の自由にして、必要に應じ、經濟と社會とに適合せしめうるに拘はらず、一般に吏員は法科出身者を中心となし、社會事務に門外漢たる法科出身者をあてゝ居る。社會吏員は法的國家の一員たる限り、法學的素養をもたなければならぬが、それと共に、社會を知り、社會問題を分析理解し、それに對する方策を定むる技能を有たなければならぬ。單に社會現象を法的規範に引き入れ、それに基づき解釋するだけでは足りない。新時代の社會吏員として養成するには現代國家の要求する法學的、經濟學的、乃至、社會學的素養をもたなければならぬ。社會事業吏員、殊に、高級な社會事業吏員は法科出身者では足りないから、社會事業的知識

とそれが運用に習熟するもの、中より任用しなければならぬ。すでに變化して別の實體をもつにいたりし現代國家の一般官吏、特に社會吏員に要求する資格は既に全く別のものとなり、變化を遂げて居る。

二 高級社會事業吏員の資格

官公吏任用法も亦分化しなければならぬ。單に法科出身といふが如き單純なる資格を以て各種の専門的行政に當てることはできない。社會吏員たるにはそれ相當の素養と資格とを要するのであり單に法科出身者を以てそれに應ずることはできない。吏員任用の合理化即ちその教育と經驗とに適合する職業に従事せしむることは一般的原則たるべきである。この原則に従つて、今後、官公吏の任用は合理化さるべく、社會吏員亦その素養と資格とに従つて任用さるべく改正されなければならぬ。

高級社會事業吏員たるには國民の政治状態を知らなければならぬのは無論であるとして、それと共に、國民の經濟状態や社會的構造をも知らなければならぬ。國民經濟や社會的政治や財政々策の見解なくして高級社會吏員たることはできぬ。社會事業組織、社會事業施設及團體の知識と、行政組織の知識とは高級社會吏員に欠くことはできぬ。その外、心理學的知識をも要するなど、到底社會吏員の資格は法律一天張では足りない。勿論、これ等の素養をあらゆる高級吏員が有つことは實際上不可能である。なぜかと言へば、高級吏員にはそれ以下の吏員

が社會吏員として任用せられるであらうが、かくの如き吏員に高き科學的素養を要求することはできぬであらう。併し、これ等中位の吏員の中から比較的資格を具備するものを求め、昇級せしむることにすれば高級社會吏員たる資格は一先づ具備するわけである。それに経験家の中にも科學的知識を所有し、高級吏員たるに足るものはいくらも有るから、これ等の人々の高級吏員としての任用は今後益々特例をひらかねばならぬ。現今の如き窮屈な任用法を以てしては活きた人材は容易に求めがたい。單に形式的な資格を具備するに過ぎざる死物を集めて活きた仕事をする仕組みでは到底社會行政といふが如き微妙な流動的な經驗と豊富な世間的知見と理想とを要するが如きものに對しては優良な成績を擧ぐることはできない。ここに特別任用の範圍が將來益々擴張せられなければならぬ理由がある。現時に於ける任用法は合理化的見地によつて決められたものではなく、その他のものと同然、力によつて奪取する流儀で特權者がさう決めたままで、複雑多岐となりまざる輓近の任用法としては既に老廢に傾いて居る。これに對し、新時代の要求に適合せしむるが如く任用法はどしどし更改して行かなければならぬが、その一が特別任用範圍の擴張である。社會行政に於ける特別任用は益々急を加へつゝある。法科的素養をもつに過ぎざる資格を以て社會行政に當るは絶対に不可能である。それは法科出身者が士官に代つて兵隊を指揮するやうな不合理である。社會行政には豊富な經驗が要るから形式的素養の所有者以外に經驗家を任用する事にならねばならぬが、かゝる人々に對しては任用に當り社會行政家としての科學的知識を具備するや否やを詮議しなければならぬ。

但し、大學に於ける専門教育は社會行政家としての主たる途である。法科出身者ならぬそれ相當の分科的知識を獲得所有せし大學出身者中より高級吏員は任用さるべきである。その他の社會吏員には特殊社會事業學校出身の方が宜い。社會行政は全人的なるを要するから大學といふが如き分科的機關を以てしては全一的乃至人間的な社會行政家を養成することはできない。但し、大學に於ける社會事業教育も亦なるべく單科大學式のものではなく、綜合大學式のものとなすべく、大學の教科に於ても實習と經驗との機會は多分に與へなければならぬ。

高級社會吏員は組織的な思想と知識とを有ち、分科的通曉者たるを要するから、大學で教育するものが最も適當であらう。これについて獨逸ウワイマールに開かれし社會吏員養成會議は次の如き決議をして居る。

Die leitenden Berufskräfte in der Wohlfahrtspflege müssen gelernt haben, sich mit wissenschaftlichen Problemen zu beschäftigen, und bestrebt sein, weiter an sich und an der Erforschung der wohlfahrtsmaterien zu arbeiten. Die Erziehung zu Wissenschaftlichen Arbeit kann jedoch nur bis einem gewissen Grade durchgeführt werden, da die Fähigkeit, wissenschaftlich zu arbeiten, zum Teil auf Anlage beruht. Neben der wissenschaftlich formalen Schulung an der Universität ist auch die Übermittlung von einschlagigen Wissensstoff zu fordern.

(社會事業に於ける指導的職業家は科學問題を取扱ふことを學び、なほ、社會事業資料の取扱方を究明しなければならぬ。科學的活動はある程度に於て教育によつて獲得されるが、科學的な活動は一部分素質に關する。大學に於ける形式的教育と共に知的資料の傳達が必要である)

大學に於ける社會事業家の養成は無論萬能ではない。それは分科的知識を授けるけれども、人間的知識を授けない。全的とか人間的とかいふことは大學では何事をもなし能はぬ。それに大學は又人間の素質にまで立ち入ることはできない。天性、社會行政家ならぬものに對し、大學教育を以て一切を造り出すことはできない。たゞ併し、指導的位置につく高級社會吏員は大學で養成し、殊に社會事業科に於て養成すべきである。その他の素養は副次的であり、副次的に獲得しさへすれば宜い。高級社會吏員は大學に於て分科的學習をなし、その上、經驗を積んだものでなければならぬ。

三 大學出身者

大學出身者を社會事業家となし、社會行政家に任用することについては無論多くの反對がある。大學出身者は形式的な學問をなすに過ぎざるもので、形式的で内容的でない。たゞそれは形式を知るだけで、内容については概して無智であり無能である。それは抽象的知識は一通り持ち合すが、個々について與り知らず、その上經驗

にも乏しい。社會行政家としては抽象と形式とに出入するだけでは無論無能であり、その上危險である。個々を知りそれに熟せざるが如きものは個々を取扱ふ實際家としては極度に不適任である。我國では未だ高級社會吏員として大學出身者(社會事業科専攻者をいふ)を用ゐては居ないが、下級吏員たる社會事業主事などには社會學専攻者が既に配當せられて居る。これ等の人々の成績は今のところ極めて悪く評判は一般に宜敷くない。これ等の人々は恰も一種別なところを出て來たといふ氣配で、半可通な形式的知識を振りまわすが、社會事業には全然素人であり、經驗は毫もなく、これで評判が好いとなれば餘りに虫がよすぎる。こゝに於て、社會事業吏員任用の根本的刷新がある。高級社會吏員には大學で社會事業の専攻をなせしものゝ中より、中位の吏員は特殊社會事業學校出身者の中より選抜任用すべきである。

大學では社會吏員たるべきものは社會事業を中心となし、その他、社會事業に密接に關係のある社會的經濟學的科學に出入しなければならぬ。それ故、高級社會吏員たるべきものは社會事業、一般社會學、社會政策、社會教育、社會倫理、經濟學の知識を獲得所有しなければならぬ。經濟學殊に社會的側面よりする經濟學の知識は深化しなければならず、社會學の開拓も亦必要であるが、その中心をなすものは無論社會事業である。その外、社會吏員には行政學の素養が無論要る。行政上の知識と行政組織の知識とは社會吏員に必要である。それ故、行政學、行政々策、都市行政學、都市行政々策といふやうなものが社會吏員の必須科目となる。經濟學、行政學上の

知識の所有は社會吏員たるものゝ資格を形づくる。

高級社會吏員は大學に於て殊に養成せられたる専攻者の中より選任するのであるが、それと共に公私團體に於て多年經驗を積める實際家の中よりも選任し、社會事業に關して特殊の知識を有する専門學校程度の教師の中よりも選拔任用すべきである。

四 社會吏員教育の基準

社會吏員の教育は社會事業を中心として、經濟學及社會科學の實習を目的としなければならぬ。それ故、社會吏員たるには社會事業學、社會政策、社會學、經濟學、行政學、都市學及都市財政、社會教育學などを實習させなければならぬ。

かくの如き理論的科學的學習をなした上で、一定の經驗を積まなくてはならぬ、經驗の獲得には重きを置かなければならず、少くも二年間の經驗がある。科學的學習と共に社會行政の實際に當り、一般的乃至個々研究の題目について實習を積ませるやうにする。科學的研究は大學でなし、實習は大學指導の下に行はれる。社會吏員養成に當たる大學教授は單に理論家であつては足りないから、それ等の教授は卓越する科學者であると共に他面實際的手腕を有つものゝ中より選任されなくてはならぬ。

社會吏員は特別任用によるものゝ外は無論一定の檢定を経て登用されなければならぬ。これは現行の高等文官試験が分化すればその儘襲用して差問へないであらう。考試は單に理論的知識を知るだけでなく、實際的知識を所有するや否やをも知らなければならぬ。この上、社會吏員たるには人物試験が最も肝要な部分である。社會事業家としての固有性の何であるやについては別のところで述べたが、かゝる *Eignung* を所有するか否かは社會吏員考試の基準たるべきである。こゝに於て、社會吏員の考試は(一)科學的知識、(二)經驗、(三)固有性にわたらなければならぬ。

學校に於ける卒業試験は教授と實際家と實習にあつた公私團體の代表者とによつて協同行はれるものが最も完全である。

獨逸の大學では既に社會吏員の養成に一步を進めつゝあり、*Walter Norden* 教授は柏林大學に於て、*Kuln* ケル教授及ボウリツヒカイト教授はフランクフルト大學に於て、*Kelrle* ケルレル教授はフライブルヒ大學に於て、*Nohl* ノール教授はゲツチンゲン大學に於て、*Weyerbaer* ウェーバー教授はミュンステル大學に於て夫々社會吏員の特殊養成機關をつくることに努めつゝある。それに獨逸では公私社會事業團體、都市、都市聯合は社會吏員養成につき多大の熱心を示し、その代表者達は吏員養成運動に参加しつゝある。

我國に於ては施設と行政とは偏へに進展の途を辿りつゝあるが、これに従事する社會吏員の養成は全く顧らる

る程度に達せず、大學に於ける社會事業教育も未だ甚だ不完全なるもので、見るに足るものはない。特殊社會事業學校なるものは未だ一もない。それに社會吏員とても法科萬能の形式の下に立ち、何等特殊の社會吏員養成の途が開かれて居ない。この間にあつて、十年間に微々たる救済係が外局としての社會局にまで進展し今正に社會省特設の聲を聞くにいたつた。施設と法制とだけでは社會行政は無論完成しない。人の問題が最も重要であるから、社會省の提議と共に我國民は又社會教育機關の整備とその特殊任用法とに熱心を示さなければならぬ。

参考文献

1. Kurt Jeserich, zur Ausbildung unserer höheren Sozialbeamten, Deutsche Zeitschrift für Wohlfahrtspflege, 5/8.
2. Salomon, Die Ausbildung zum sozialen Beruf.
3. 海野幸徳「社會事業學原理」一篇七、八章、四篇五章。

第二十章 統合的社會改良主義

統合的社會改良主義は竟に確立すべきである。全體主義は立つことを得ぬ。すべての社會的主義は社會改良の形式及方法として行くところまで行き得ざる中途半端なものである。現今、かくの如き中途半端な社會改造論が時を得顔に榮へて居るのは、未だ社會改良の形式論、その方法論が精細に分析闡明せられないからである。

著者は本書に於て社會改良の方法を研究し發表する意圖の下に終始一貫論述したのであるから、如何なる社會を以て理想社會であるかの具體的論究には少しも立ち入らなかつた。但し、かくの如き具體的社會組織論は又別に論究しなければならぬものであるから、私は將來別著に於てそれを研究し發表するであらう。

本書に於て社會改良の方法論が明かに確立せられ、社會的機構を如何にすべきやの原則が明定せられた。これに照らし、具體的な社會機構論も展開せられるのであつて、先づ、本書の論理を通じて、次の社會として誇稱せらるゝ社會主義とその社會とが人間幸福について何の貢獻するところなきを知ることが得た。その他の社會組織論に對しても本書の論究せし方法論に照明すればその價値は蓋し明白となり來るであらう。

終りに著者は明言する。著者は階級的立場に左袒せず、終始人類の立場にあり、鬭争と嫌忌と排斥との階級的

立場に對して、終始一貫、人間と人間社會とを尊重し、愛敬し、協調と愛好と博愛との世界を建設せんとす。これ等著者の思想は遂次江湖の眼前に展開せられるであらうが、著者はこゝに愛の世界を建設するにあたり、數多き理想主義者たる男女の支持を得んことを希望する。

参考文献

1. 海野幸徳「貧民政策の研究」
2. 海野幸徳「社會事業學原理」
3. 海野幸徳「社會事業とは何ぞ」
4. 海野幸徳「階級闘争の研究」
5. 海野幸徳「最近の社會事業」

第二十一章 集團的改良主義の個人的改良主義への還元

個人的改良形式たる體驗社會事業は集團的改良形式たる概念社會事業の如く反省によつて對象を捕捉するのではない。その特徴は直觀的なるにある。ありのままの生命は反省により概念的構成を以て把握することの能きるものではない。ありのままの生命を概念によつて切斷する刹那、生命そのものは死んで了ふ。言はゞ、概念によつては死んだ生命を了解しうるに過ぎない。Das lebendige Leben を了解するには直觀によつてありのままに悟得するより外はない。

體驗社會事業は生きたる社會事件を了解する唯一の方法である。概念社會事業形態によつては、生きたありのままの社會事件を了解することは能きない。例へば、貧民を全體として概念的に了解する場合を考へて見る。この場合、貧民は抽象的形式的標準的のものとなり、生きた如實の貧民といふものは竟に捕捉することは能きない。この方法によれば、貧民全體だの労働者全體だのといふものは了解せられうるか、血と涙とを盛つた生きた如實の貧民は全然視野の外に去つて了ふ。男子の對象把握は概念的であるから、かくの如き場合、女子の如くありのままの社會的疾苦や社會的欠陥を髣髴たらしむることはできない。男子の掲げ出す社會事件は血も涙もない

死んだ冷骸であるに過ぎない。これは恰も生物學に於て化學的觀念だの形態的觀念だのと言つて如實の生命を悟了することができず、また、心理學に於て構成的方法を探つて死んだ精神を掲げ出すと同じである。

體驗社會事業は生きたありのままの社會事件を理解する唯一の方法である。貧病者の場合を考へて見る。この場合、貧病者は概念的に構成理解せられず、如實の貧病者としてありのままに理解せられる。それは經濟的に困窮するであらう。併し、その經濟的困窮は苦汗労働の結果であらう。その労働條件は現代の社會經濟組織の欠陥にも想倒せしむるであらう。それが又病患に關連すると見らるゝでもあらう。經濟的に困窮するとする。それは苦汗労働のためである。よつて過勞と榮養不良とを生ぜずしては止まないで、そのため病患を惹き起したのであらう。それが貧にして病、病にして貧といふことになつたのであらう。この貧病者の住所は萬年夜の貧民窟のうち百軒長屋である。それが又食と病とに導いたのであらう。かくて、この一人の貧病者の境遇はそれからそれへと聯想されて止めどもない。かくてこそ、初めて生きた如實な貧病者といふものを、觀測することができるのだらう。こゝには血も涙もある。それは生きた社會事件である。かくの如き状態に於て、社會事件を理解せんとすれば概念的で宜いであらうか。それは到底かくの如き具體的な如實なものを把握するに堪えないではないからうか。

私は體驗社會事業に無上の價值を與ふるが、この事は體驗社會事業の本質の深き分解に進むことによつて始めて可能となる。體驗社會事業は直觀によつて社會事件の *lebendigen Leben* に入出し「全一」なものとして社會事件を構成する。眞の社會事件はどこまでも分斷されたものではなく、「全一」といふのがその姿である。

直觀即ち *unmittelbar* である。概念によつて分解せられた社會事件は間接的であつて實體に肉薄することはできないが、體驗によつて感得せらるゝ社會事件は直接的である。社會事件は客觀體として對象としてあるのでなく、體驗として、そのまゝ靜觀せられうる。生き生きとしたありのままの社會事件は直接に體驗によつてのみその姿を現はす。反省によつて分斷し、これを概念構成のプロセスを経て理解するのではなく、そのまゝ又ありのままといふところに體驗の光景がある。こゝに直接なものとして社會事件は把握せられ理解せられる。かくの如き直接的理解は慈善家や特志者や善人によつてのみ可能であるが、一般に男子よりも女子に於て一層可能である。女子の思考方法は概念的であるといふよりも、直觀的であるから。そして、女子は形式としてよりも内容として把握し、また、それよりも、事件を人間化する技術をもつて居る。男子は事件を器械的なものにして了ぶが、女子はそれに人間の感覺を付與する。こゝに社會事件は人間的なものとして再構成せられる。凡て社會事件は無限の *kompliziertheit* として存在するから、そこには無限の *kombination* といふものが生じなければならぬ。然るに、概念的にこれに直面するときは、かくの如き複雑性も結合性も見失はれ易く、ために、素材的制限をうける。素材が欠乏しては到底 *Totalität des fürsorgebedürftigen Sicksals* と云ふことは充足しがたい。然

るに、人間の全景を見渡し、要救護者の全體にわたらないような社會事件の取扱ひ方は社會事業の方法としては全然不妥當である。それ故、専門的知識が得られても、體驗に進むことができなければ、直接的なものとしては社會事件を構成することができぬから、それは畢竟社會事業、社會政策及その方法に關係のないものとなり了るであらう。

直接的なるものは又無意識的なるものである。無意識なるものは外界にそれを投寫することがむづかしいが、それ自身完了するものとして宜い。かくて、無意識的なるものは又主觀的であると言へる。體驗社會事業は無意識的なるを特色とするが、それは又主觀的なるものである。これに對し概念社會事業は反省に基き意識を加ふることを特徴とするが、それは又客觀的なるものであると言へる。この特徴に應じて、概念社會事業は社會事件を外界に投寫し、それを外物として取扱ふ。これに對し、體驗社會事業は外物として存するものと雖も、これを主觀化し、更らに、體驗として自づから感得し自づから完了する。概念社會事業は物として社會事業を取扱ふが、體驗社會事業はこれを *sachliche* に對立する *menschliche* なるものとして取扱ひ、尙ほ體驗社會事業は漠然たる「一般」といふものよりも、隣人とか同類とかといふやうなものを取扱ふ。「物的」は概念的であり、反省を経てそれを客觀化するが、「人的」は體驗的あり、無意識の過程を経て、それを主觀化する。概念的といふこと、*tofflich* といふこと、客觀であるといふこと、間接的であるといふこと、意識的であるといふこと、

soziale と *sozial* とは *soziale* も相關々係をもつ、概念社會事業の *soziale* に對しては體驗社會事業の *Erkenntnis* といふことが對立する。この意味に於て一般に社會事業と言はるゝものゝ方が、慈善事業と言はれるものよりも善行としては下位にあり、従つてその價值に於ても劣つてゐる。社會事業は物的であるが、慈善事業は人間的である。物的な取扱ひに對して、人間的な取扱ひを基調とする慈善事業の方がどの位善行として優れてゐるか分らない。

これ等の考察を通じて、無意識的な體驗社會事業は、意識的な概念社會事業よりも本源的であり、その價值に於ても優れてゐると言ふべきである。社會政策に於ても亦然り。

意識的な概念社會事業よりも無意識的な體驗社會事業が優れて居り價值も高いならば、知識による社會事業よりも感性による社會事業の方が優れて居り、又價值も餘計あるとしなくてはなるまい。知識により分析を進めて行く概念社會事業は *Hera* により感得する體驗社會事業よりも社會事件の如實の把握に劣り、それを人間的なものとするに於ても劣つてゐる。情によつて感得するときには社會事業は *besetzt Ganze* として體驗せられる。社會事件の全體にわたるものは *besetzt* なものとなり、尙ほそれは全體そのものであつて、部分ではないこととなる。

今日、我々の社會事業と言つて居るところのものは、形式的標準的方法によつて集團を對象として進む *soziale*

そのものである。現今、荐りに出現する集團的困窮はこの方法で取扱つて行く外はないが、常に、地方、國及世界の困窮を一括して取扱ふことは、たとへ、その組織や規模は宏大であつても、其價值や意味に於て先優であるとは言へない。その意味や價值の上からは Einzelakt としての個々人の運命を理論的に對して實際的に（實際理性判斷的に）人間味を添へて、物的でなく、「人的」なものとして取扱ふ方がどの位優れて居るか分らない。それ故、概念社會事業はいつでも體驗社會事業を回顧しその本源的意味と價值とを恢復せんとして努力しながら進むにあらざれば、縦へ集團政策としての形體に於て優ると雖も畢竟何等の價值なき事業として了はらなければなるまい。社會事業を集團化し、隣人としての意義を失はしむることは、救助事業に於てどれ程害悪であるか知れない。一般的形式的標準的な集團主義的社會改良はそれなければ大規模な救助を遂行しえないものとしてそれを假象とし假設として容認するに過ぎないものである。人間を物的に容觀的に取扱ふ社會改良の方法はそれ自づから矛盾であつて不完全だと解釋しなければならぬ。

いづれにしても、社會事件を對象として、その意味と價值の上から判斷するときは、體驗的社會改良は先優性をもち、それは概念的社會改良の生れ出づる本源的なもので、一切これに還元せらるゝにあらずんば意味と價值とを喪失すると言はなければなるまい。體驗的社會改良はそれ自づからの意味と價值とを有つが、概念的社會改良は體驗的社會改良に關係し、更らに、これに還元せらるゝことによつて、初めて善行としての威嚴と價值とを

恢復する。この事は社會改良を以て客觀化して外形に偏し更らにそれを器械化して隣人よりも集團を重しとする形式的一般的社會改良を禮賛する現代人の再思しなければならぬことである。但し、集團的改良形式が體驗に統合されるところに量的救助を主調とする現代社會に特有な社會改良形式が現はれる。こゝに社會政策の最も基本的な重要な社會改良の形式と方法とが獲得せられる。

参考文献

1. 海野幸徳「社會事業學原理」
2. 海野幸徳「社會事業概論」
3. 海野幸徳「社會事業とは何ぞ」
4. 海野幸徳「貧民政策の研究」
5. 海野幸徳「日本社會政策史論」(東京 赤壇閣發行)

昭和六年六月五日印刷
昭和六年六月十日發行

社會政策概論 (定價金二圓八拾錢)

著者 海野幸徳

發行者 野澤廣
東京市神田區三崎町三丁目一番地

印刷者 大門忠
東京市外西區墨田町東中區三八三番地

發賣所 東京市神田區三崎町二ノ一
赤爐閣書房
電話九段一五四五 振替東京六二三八六

海野幸徳著

階級闘争の研究

四六版 四百四十頁
金文字クロス製函入
定價二圓 送料十二錢

—御待ちかねの名著出づ—

目次

一 階級闘争	四 戦 争	七 階級闘争の是非
二 階級の概念	五 革命と進化	八 融 和 問 題
三 集團の分類	六 時期尚早の革命	そ の 他

階級闘争は現代に於ける最大なる人類關心事也。この問題に對し如何なる態度をとるべきか、如何に解決すべきかを知らんと欲して渴望する満天下の讀者は博大深奥なる研究家たる著者に聽かざるべからず。乞ふ披見して其論策を知れ!!

近 刊 豫 告

海野幸徳著

日本社會政策史論

(六月下旬發行)

四六版 四百五十頁

- 一 我國には社會政策史論の成書一もなく、江湖の要求急なるに拘はらず、全くこれに應じ能はざる現状にあり。
- 一 著者の社會改良に關する研究はその名著の續發により既に世界的研究家の伍班に列するが、本書の論究は著者ならではの企圖しがたき獨壇上に立つ論述なり。
- 一 本書一度出で、學校、社會政策界、社會事業界、社會研究家の渴望を醫やすに足る!!

近 刊 豫 告

海 野 幸 徳 著 (七 月 中 發 行)

次 の 社 會

四 六 版 四 百 頁

次の社會は何であらう。

これ萬人の知らんとするところ。

著者は好むも好まざるも現はるゝ次の社會に對し、若くは現に實現されつゝある社會に對し、先づ事實判斷として科學的研究の成果を發表せんとす。好惡に基く價值判斷を離れて事實如何なる社會が出現するであらう。

熱血と熱涙を揮つて社會開拓に奮進する著者の椽大の筆により、協調と愛好との人類社會に接せよ。

著者は最も温健妥當なる社會改良論者である。健全なる社會觀は始めて著者によつて提供せらる。

前司法次官
法學博士 林頼三郎先生閱 並 序
辯護士 中島千太郎編著

改正令 高等試験の受け方と其問題

附 試験委員より受験者へ

四六判 紙數八百五十頁
クロース製 金文字函入
試験委員寫眞八十餘名挿入
定價 金二圓四十錢
送料 十六錢 市内 六錢

本書著者は高等試験行政科並に司法科を一舉に合格せし人にして自己の體驗を基礎とし、一見何人にも解り安く尤も整理たる、獨特の編輯法により改正高等試験「高等試験の受け方」第一編を「高等試験問題」の二編に分ち高等試験「筆記試験」並に「口述試験の受け方」の二節とし、憲法以下は各々科目別に之を受け方の篇は更に之を「高等試験委員」諸先生が各々擔任せらるゝ専門科目に亘り諸先生自ら筆を採り累々として懇切に嚙で含めたる如く「高等試験應試に對する準備」「答案作成上の諸注意」「口述試験合格の要旨」「口述試験方法上の要領」「平素の勉強方法」「試験直前準備方法」其他微に入り細に亘つての諸注意に關し尤も懇切なる箴言を示されたるものにて、此種の書籍としては初めての試みであつて、高等試験應試者の一大福音である。

2792

胡沙征人著

四六版
五五頁
送定タロ
料價 1ス
十一圓
製函入
二六
十錢

謎の國外蒙古

天下の秘密國外蒙古の富源寶藏郷は

本書によつて初めて發かる

外蒙古の首府庫倫はソヴェートの赤化以來少數の獨逸人以外の外國人は絶對入國禁止であり、殊に日本人は發見次第捕縛投獄すると云ふ亂暴極まる現狀である。
然るに本書著者は庫倫赤化以前に永らく外蒙古を放浪し、蒙古語に堪能なる處より冒險にも蒙古人に變装し大道藝人となつて縦横無盡に外蒙古を踏破し、世界最初の文明國として、アダム・イブの住んで居つたと云ふ西域の都にして七百年前に埋没せし遺蹟を發掘中のコミロフ博士の現狀を初め成吉思汗は源義經なりと云ふ傳説の探索並に各地の無盡なる寶藏郷をたづねし尊い記録である敢て一本をお薦めする。

~~591~~ 364
~~302~~ U74

終